

### Ⅲ 県外観光客動態調査

#### 1 概要

##### ● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季別にアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて、1 グループに 1 名 (1 回答) を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

##### ● 調査場所 (10 ヶ所)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、桂浜、高知城、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

##### ● 調査時期

- ・ 冬季：平成 31 年 1 月 2 日～平成 31 年 2 月 10 日
- ・ 春季：令和 元年 6 月 22 日～令和 元年 7 月 15 日
- ・ 夏季：令和 元年 7 月 20 日～令和 元年 8 月 18 日
- ・ 秋季：令和 元年 10 月 5 日～令和 元年 11 月 17 日

※ 1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

- ・ 冬季：室戸岬 (3 日間)、モネの庭 (2 日間)
- ・ 春季：龍河洞 (2 日間)、四万十川 (2 日間)
- ・ 夏季：室戸岬 (2 日間)
- ・ 秋季：モネの庭 (2 日間)、土佐和紙工芸村 (2 日間)

## ● 調査結果の概要

**「2泊3日」が過去4年を通じて最大。県内旅行日数は前年比0.1日増で2.1日。**

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表3-1）は、「2泊3日」の割合が平成27年以降の調査で最大となる16.0%となり、県内旅行の平均日数（P24：図5-1）は前年から0.1日増加して2.1日となっている。主要な発地ブロックでは、「関東」「中国」「近畿」などが増加、「四国」は横ばいとなっている。

**「関東」「中国」の入込が増加。「四国」は減少。**

発地ブロック別入込割合（P20：表4-1）では、「四国」が34.6%と最も多かったが平成29年と並んで過去4年の調査を通じて最小となった。また、近年減少傾向にあった「中国」は前年比1.6ポイント増加となり、「九州・沖縄」は前年からわずかな増加であるものの過去4年の調査を通じて最大となった。

**「家族」旅行、同行者「4～5人」が増加。「1人」旅の増加傾向は継続。**

旅行形態割合（P29：表8-1）は、「家族」の割合が前年比で2.1ポイント増加の69.6%と大半を占め、「1人」「団体」もわずかに増加。同行者数割合（P30：表8-2）は、「4～5人」の割合が前年比で2.5ポイント増加。「2～3人」だけが減少となった。

**県内平均消費額は、27円減少の25,206円。土産代の減少傾向が際立つ。**

県内平均消費額（P35：図10-1）は、前年比で27円減少の25,206円となり、平成27年からの減少傾向が続く。四季別（P38：表10-2）では、前年比で春季が911円、夏季が268円増加したが、冬季と秋季がともに約900円の減少となった。

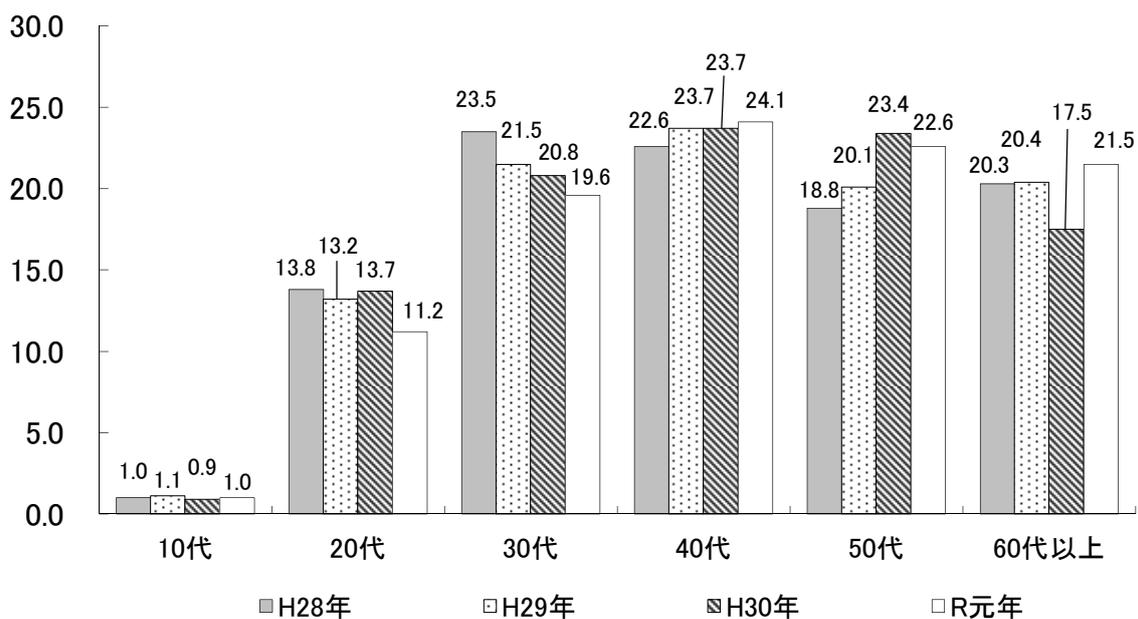
費目ごとの変動（P35：図10-1 参考①）は、唯一「土産代」だけが前年比で減少となっており、平成29年以降の減少傾向が続いている。

## 2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [ H28~30、R元年 ]

	H28年 (n=2,976)	H29年 (n=2,696)	H30年 (n=2,657)	R元年 (n=2,912)	対前年比 R元年/H30年
	10代	31 1.0	29 1.1	24 0.9	
20代	412 13.8	356 13.2	363 13.7	325 11.2	81.8%
30代	698 23.5	581 21.5	552 20.8	570 19.6	94.2%
40代	674 22.6	638 23.7	629 23.7	702 24.1	101.7%
50代	558 18.8	541 20.1	623 23.4	658 22.6	96.6%
60代以上	603 20.3	551 20.4	466 17.5	627 21.5	122.9%

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [ H28~30、R元年 ]



(表 2-1 参考①) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [ H29、30、R 元年 ]

	H29年 (n=2,696)		H30年 (n=2,657)		R元年 (n=2,912)	
	男	女	男	女	男	女
10 代	17	12	14	10	16	14
	58.6	41.4	58.3	41.7	53.3	46.7
20 代	196	160	189	174	171	154
	55.1	44.9	52.1	47.9	52.6	47.4
30 代	317	264	305	247	364	206
	54.6	45.4	55.2	44.8	63.9	36.1
40 代	393	245	401	228	458	244
	61.6	38.4	63.7	36.3	65.2	34.8
50 代	339	202	431	192	452	206
	62.7	37.3	69.2	30.8	68.7	31.3
60代以上	358	193	322	144	407	220
	65.0	35.0	69.1	30.9	64.9	35.1
計	1,620	1,076	1,662	995	1,868	1,044
	60.1	39.9	62.5	37.5	64.1	35.9

年代別旅行者割合 (P15 : 表 2-1) をみると、40 代が 24.1%と最も多く、次いで 50 代が 22.6%、60 代以上が 21.5%と続いている。前年と比べ 10 代、40 代、60 代以上が増加し、その他の年代が減少している。

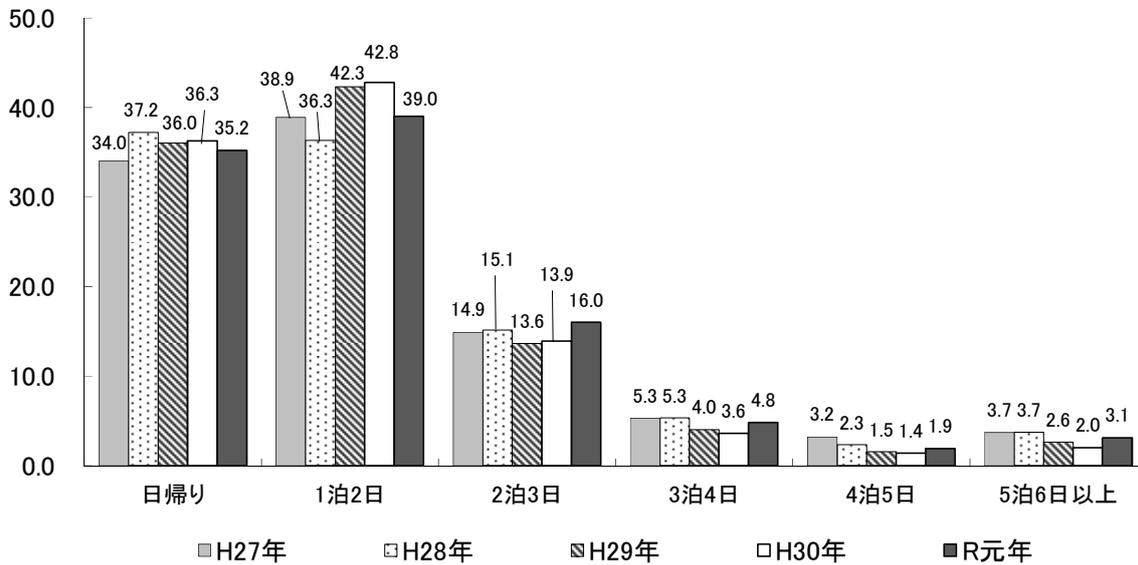
男女比は、男性が 64.1%、女性が 35.9%となっており、全ての年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

### 3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [ H27~30、R元年 ]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
H27年 (n=2,940)	1,000 34.0	1,143 38.9	438 14.9	157 5.3	95 3.2	107 3.7
H28年 (n=2,976)	1,106 37.2	1,079 36.3	449 15.1	157 5.3	67 2.3	118 3.7
H29年 (n=2,696)	971 36.0	1,141 42.3	367 13.6	107 4.0	41 1.5	69 2.6
H30年 (n=2,657)	964 36.3	1,138 42.8	370 13.9	97 3.6	36 1.4	52 2.0
R元年 (n=2,912)	1,026 35.2	1,135 39.0	466 16.0	140 4.8	54 1.9	91 3.1

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [ H27~30、R元年 ]



日帰り客と宿泊客の割合（P17：表 3-1）をみると、「1泊2日」が39.0%と最も多く、次いで「日帰り」が35.2%、「2泊3日」が16.0%と続いている。

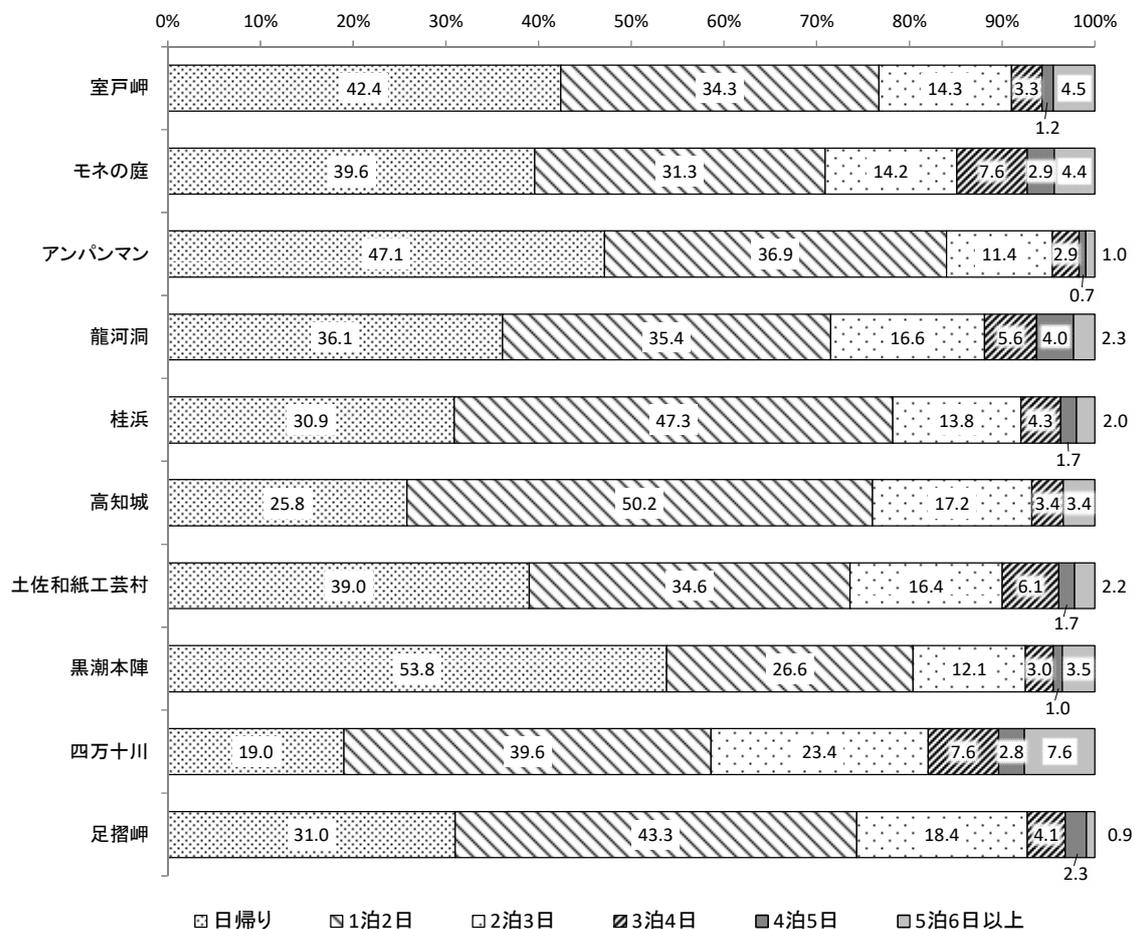
前年と比べ「2泊3日」以上の旅行日程が合計4.9ポイント増加しており、「1泊2日」が3.8ポイント、「日帰り」が1.1ポイント減少している。平成27年の調査から通してみると、「2泊3日」の割合は過去最大となっている。

（表 3-3）四季別日帰り客・宿泊客割合（上段：件 下段：%）〔H30、R元年〕

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	H30年	181	240	79	26	11	23
		32.3	42.9	14.1	4.6	2.0	4.1
	R元年	232	227	102	34	19	45
		35.2	34.4	15.5	5.2	2.9	6.8
春	H30年	289	279	77	18	4	6
		42.9	41.5	11.4	2.7	0.6	0.9
	R元年	278	268	101	19	7	14
		40.5	39.0	14.7	2.8	1.0	2.0
夏	H30年	239	300	122	36	16	15
		32.8	41.2	16.8	4.9	2.2	2.1
	R元年	268	345	144	51	17	21
		31.7	40.8	17.0	6.0	2.0	2.5
秋	H30年	255	319	92	17	5	8
		36.6	45.8	13.2	2.5	0.7	1.2
	R元年	248	295	119	36	11	11
		34.5	41.0	16.5	5.0	1.5	1.5

四季別データを前年と比べると、冬季は「1泊2日」が8.5ポイントと大きく減少し、その他の項目すべてが増加となっている。春季は「2泊3日」以上の項目が増加、「日帰り」と「1泊2日」が減少となっている。夏季はいずれの項目においても小幅な変動となっており、「3泊4日」が1.1ポイントの増加、「日帰り」が1.1ポイントの減少などとなっている。秋季は春季と同様に「2泊3日」以上の項目が増加、「日帰り」と「1泊2日」が減少となっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [ R 元年 ]



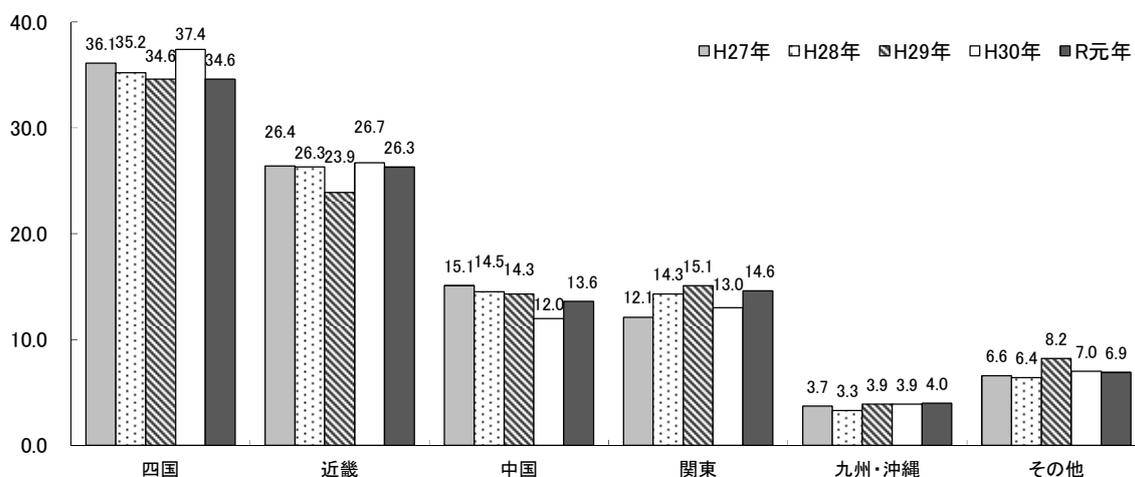
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合は黒潮本陣が 53.8%と最も多く、次いでアンパンマンミュージアムが 47.1%、室戸岬が 42.4%と続いている。また、「1泊2日」は高知城が 50.2%と最も多く、次いで桂浜が 47.3%、足摺岬が 43.3%と続いている。そのほか、「2泊3日」は四万十川が 23.4%、「3泊4日」はモネの庭と四万十川が 7.6%、「4泊5日」は龍河洞が 4.0%、「5泊6日以上」は四万十川が 7.6%と、それぞれ最も多くなっている。

## 4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [ H27~30、R元年 ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
H27年 (n=2,940)	1,060 36.1	777 26.4	444 15.1	357 12.1	108 3.7	194 6.6
H28年 (n=2,976)	1,047 35.2	782 26.3	432 14.5	426 14.3	98 3.3	191 6.4
H29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	222 8.2
H30年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	186 7.0
R元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	200 6.9

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [ H27~30、R元年 ]



発地ブロック別入込割合をみると、四国が34.6%と最も多く、次いで近畿が26.3%、関東が14.6%と続いている。

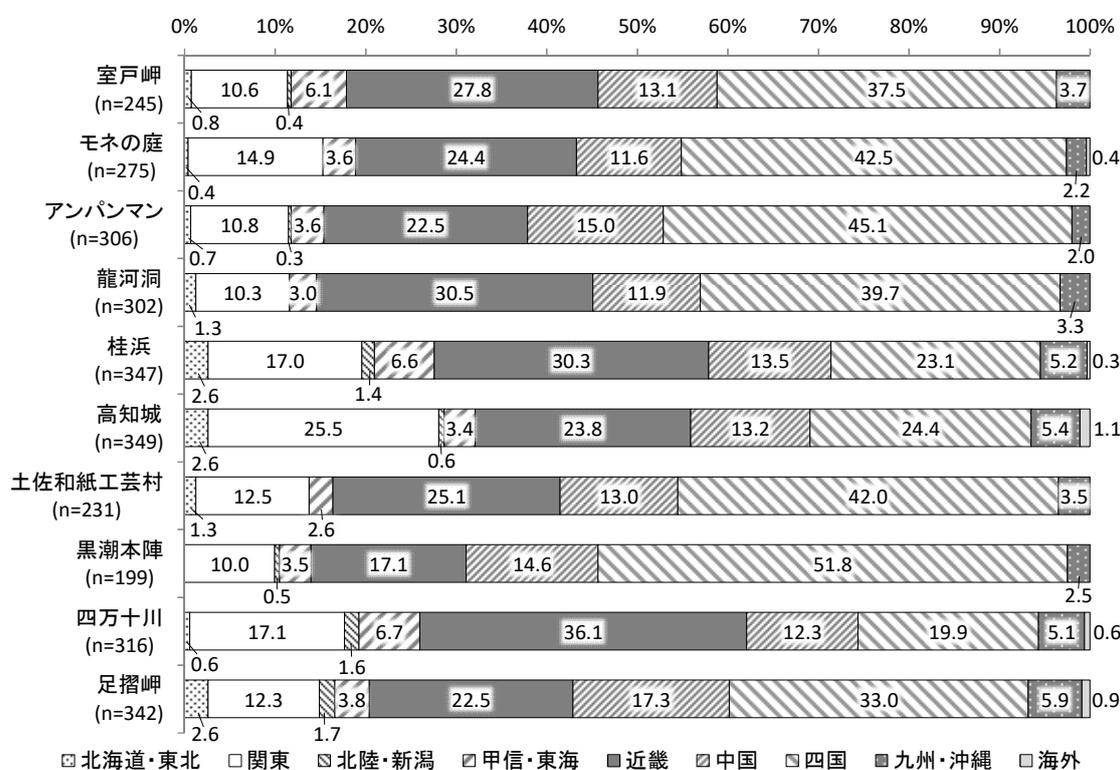
前年と比べると、中国と関東がそれぞれ1.6ポイント、九州・沖縄が0.1ポイント増加しており、四国が2.8ポイント、近畿が0.4ポイント、その他が0.1ポイント減少している。平成27年の調査から通してみると、九州・沖縄の割合は過去最大となっており、四国は平成29年と並んで過去最小となっている。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%)

[ H27~30、R 元年 全地区データ ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
H27年 (n=2,940)	1,060 36.1	777 26.4	444 15.1	357 12.1	108 3.7	130 4.4	32 1.1	15 0.5	11 0.4	6 0.2
H28年 (n=2,976)	1,047 35.2	782 26.3	432 14.5	426 14.3	98 3.3	127 4.3	28 0.9	15 0.5	10 0.3	11 0.4
H29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	152 5.6	15 0.6	21 0.8	11 0.4	23 0.8
H30年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	123 4.6	20 0.8	20 0.8	17 0.6	6 0.2
R元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	127 4.4	21 0.7	18 0.6	23 0.8	11 0.4

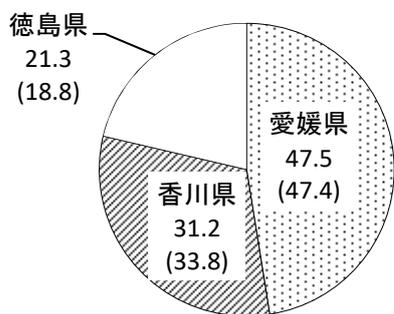
(表 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [ R 元年 ]



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると (P21:表 4-1 参考②、P23:表 4-1 参考③)、桂浜と四万十川は近畿・四国、高知城は関東・四国、その他の7地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、黒潮本陣が83.5%と最も多く、次いでアンパンマンミュージアムが82.6%、龍河洞が82.1%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が53.2%と最も多く、次いで高知城が49.3%、桂浜が47.3%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

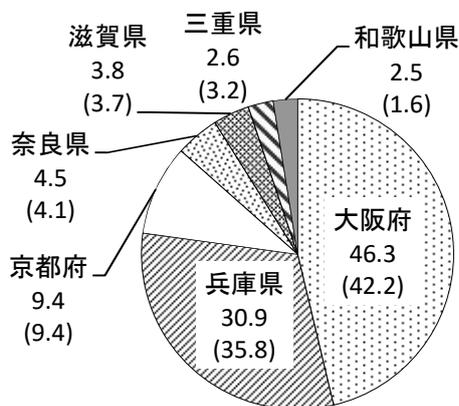


( )内の数値は H30 年

前年と比べ、徳島が 2.5 ポイント、愛媛が 0.1 ポイント増加しており、香川が 2.6 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で 1 位、また土佐和紙工芸村など 6 つの調査地において入込割合の 1 位となっている。香川は全体の 3 位、龍河洞など 5 地点で 2 位となっている。徳島は全体の 5 位、室戸岬で 1 位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

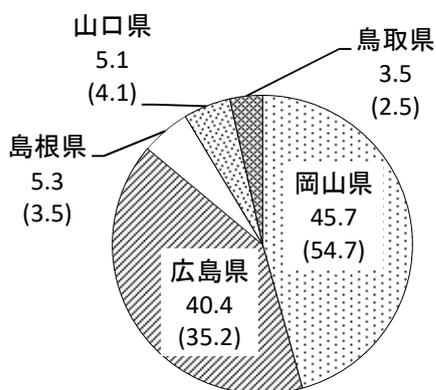


( )内の数値は H30 年

前年と比べ、大阪が 4.1 ポイント、和歌山が 0.9 ポイント、奈良が 0.4 ポイント、滋賀が 0.1 ポイント増加しており、兵庫が 4.9 ポイント、三重が 0.6 ポイント減少、京都は増減なしとなっている。大阪と兵庫で 77.2%と、近畿ブロックの 4 分の 3 を占めている。

大阪は全体の入込割合で 2 位、桂浜、高知城、四万十川で 1 位となっており、兵庫は全体の 4 位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



( )内の数値は H30 年

前年と比べ、広島が 5.2 ポイント、島根が 1.8 ポイント、山口と鳥取が 1.0 ポイント増加しており、岡山が 9.0 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 86.1%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で 7 位、広島は全体の 8 位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

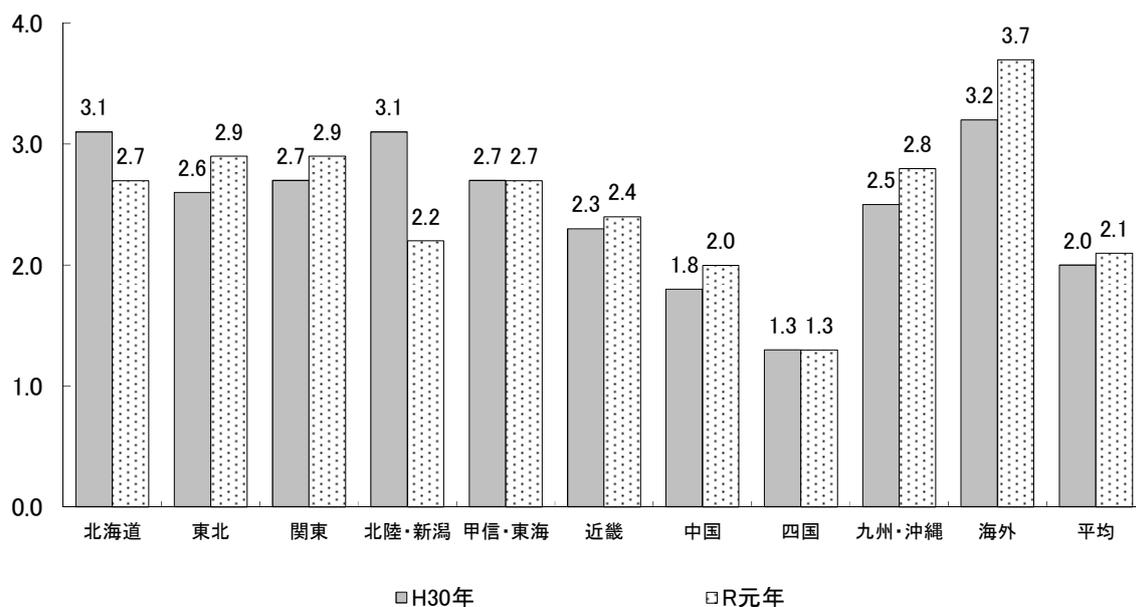
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [ R 元年 ]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位	
県外合計	245	275	306	302	347	349	231	199	316	342	2,912	-	
北海道・東北	北海道	0	1	0	3	5	7	2	0	1	4	23	
	青森県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	岩手県	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	
	宮城県	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	5	
	秋田県	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	
	山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	福島県	1	0	1	0	2	0	0	0	1	1	6	
北海道・東北計	2	1	2	4	9	9	3	0	2	9	41	-	
関東	茨城県	0	2	0	0	4	2	1	0	3	0	12	
	栃木県	1	0	0	1	1	1	0	0	0	2	6	
	群馬県	0	0	2	0	0	5	0	0	2	1	10	
	埼玉県	3	5	10	4	4	15	4	4	2	2	53	
	千葉県	3	7	3	4	2	12	1	3	7	2	44	
	東京都	11	18	14	18	35	35	17	7	26	23	204	6
	神奈川県	8	9	4	4	13	19	6	6	14	12	95	9
関東計	26	41	33	31	59	89	29	20	54	42	424	-	
北陸・新潟	新潟県	0	0	0	0	4	0	0	1	1	2	8	
	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
	石川県	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	6	
	福井県	1	0	1	0	0	2	0	0	0	1	5	
北陸・新潟計	1	0	1	0	5	2	0	1	5	6	21	-	
甲信・東海	山梨県	0	0	1	2	3	0	0	1	0	0	7	
	長野県	2	0	0	0	1	0	0	1	2	0	6	
	岐阜県	1	2	0	1	2	3	1	1	4	3	18	
	静岡県	0	0	5	0	2	3	1	0	4	5	20	
	愛知県	12	8	5	6	15	6	4	4	11	5	76	10
甲信・東海計	15	10	11	9	23	12	6	7	21	13	127	-	
近畿	三重県	1	1	2	1	6	2	0	0	3	4	20	
	滋賀県	1	1	5	0	6	5	2	2	3	4	29	
	京都府	10	5	6	13	9	10	5	4	5	5	72	11
	大阪府	30	28	28	41	50	38	32	20	55	33	355	2
	兵庫県	17	28	23	27	24	27	17	6	40	28	237	4
	奈良県	6	2	4	7	5	0	1	2	6	2	35	
和歌山県	3	2	1	3	5	1	1	0	2	1	19		
近畿計	68	67	69	92	105	83	58	34	114	77	767	-	
中国	鳥取県	0	3	4	1	0	3	0	2	0	1	14	
	島根県	3	1	1	4	3	5	1	0	1	2	21	
	岡山県	14	18	28	13	21	15	12	13	22	25	181	7
	広島県	15	10	11	17	17	20	15	14	13	28	160	8
	山口県	0	0	2	1	6	3	2	0	3	3	20	
中国計	32	32	46	36	47	46	30	29	39	59	396	-	
四国	徳島県	47	31	21	30	21	19	8	14	6	18	215	5
	香川県	22	37	49	44	19	34	25	34	17	33	314	3
	愛媛県	23	49	68	46	40	32	64	55	40	62	479	1
四国計	92	117	138	120	80	85	97	103	63	113	1,008	-	
九州・沖縄	福岡県	3	1	2	6	6	7	6	2	9	8	50	
	佐賀県	2	0	1	2	3	0	0	0	0	2	10	
	長崎県	0	1	1	0	1	4	0	1	4	0	12	
	熊本県	2	0	0	1	1	2	1	2	1	5	15	
	大分県	2	0	1	0	2	2	0	0	1	2	10	
	宮崎県	0	1	0	0	3	0	0	0	0	2	6	
	鹿児島県	0	1	0	1	2	1	1	0	0	1	7	
沖縄県	0	2	1	0	0	3	0	0	1	0	7		
九州・沖縄計	9	6	6	10	18	19	8	5	16	20	117	-	
海外	0	1	0	0	1	4	0	0	2	3	11	-	
高知県	155	125	94	98	53	51	169	201	84	58	1,088	-	

## 5 旅行日数

### 5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [ H30、R元年 ]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ0.1日増加の2.1日となっている。

サンプル数の少ない海外を除いて発地ブロック別にみると、東北と関東が2.9日で最も多く、次いで九州・沖縄が2.8日、北海道と甲信・東海が2.7日と続いている。前年と比べ、東北、関東、近畿、中国、九州・沖縄で増加しており、北海道、北陸・新潟で減少、甲信・東海、四国は横ばいとなっている。

## 5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均※〕(日)〔H27～30、R元年〕

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年
10 代	2.7	2.2	2.1	2.2	2.1
20 代	2.1	2.1	2.0	2.1	2.2
30 代	2.2	2.1	2.0	2.0	2.1
40 代	2.3	2.2	2.0	2.0	2.3
50 代	2.0	2.1	1.9	1.9	2.0
60代以上	2.2	2.1	2.1	1.9	2.0
全 体	2.2	2.1	2.0	2.0	2.1

年代別の県内旅行日数は、40代が2.3日で最も多く、次いで20代が2.2日、10代と30代が2.1日、50代と60代以上が2.0日と続いている。

前年と比べ、10代を除くすべての年代は増加、10代は減少となっている。平成27年の調査から通してみると、20代は過去最多、40代も平成27年と並び過去最多となっている。

※加重平均：平均値を算出する際に、量の大小を反映させる方法

## 6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [ H29、30、R元年 ]

		自然見物 ・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	H29年	21.7	2.7	2.7	3.3	0.6	8.2	6.9	0.8	13.7	13.7	23.0	2.7
	H30年	16.5	1.4	2.5	2.5	1.1	4.6	6.3	1.1	14.0	18.4	29.1	2.5
	R元年	16.1	3.7	3.2	5.7	0.0	7.7	8.2	1.0	14.7	16.9	20.6	2.2
家族	H29年	24.3	3.4	1.7	2.9	0.9	16.5	4.2	1.9	27.2	4.9	10.6	1.5
	H30年	21.3	4.7	0.7	2.9	0.3	16.9	3.4	2.0	27.9	6.5	11.5	1.9
	R元年	20.3	4.8	3.4	4.1	0.5	18.3	4.0	2.8	26.9	2.9	10.4	1.6
友人 知人	H29年	19.5	3.3	2.6	5.6	0.7	28.8	2.8	0.9	18.4	10.5	5.1	1.8
	H30年	19.5	3.9	1.4	4.4	0.2	28.0	2.1	0.9	22.5	11.1	4.6	1.4
	R元年	20.5	5.6	4.9	7.6	0.0	23.2	1.0	1.5	20.8	9.5	3.7	1.7
団体	H29年	7.4	29.6	1.8	3.7	0.0	13.0	3.7	0.0	9.3	3.7	13.0	14.8
	H30年	26.5	29.4	0.0	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0	23.6	2.9	0.0	2.9
	R元年	14.6	16.7	2.1	0.0	0.0	12.5	2.1	0.0	16.7	0.0	27.0	8.3
その他	H29年	20.9	2.3	0.0	2.3	0.0	14.0	7.0	2.3	9.3	16.3	16.3	9.3
	H30年	6.1	6.1	0.0	0.0	0.0	15.2	0.0	0.0	18.1	6.1	30.3	18.1
	R元年	11.5	3.9	7.7	11.5	0.0	19.2	0.0	0.0	19.2	3.9	23.1	0.0
全体	H29年	22.8	3.8	1.9	3.4	0.8	17.3	4.3	1.6	23.3	7.2	11.5	2.1
	H30年	20.2	4.5	1.1	3.0	0.4	16.9	3.5	1.7	24.9	8.8	12.9	2.1
	R元年	19.6	5.0	3.6	4.8	0.4	17.4	4.1	2.3	24.1	5.7	11.2	1.8

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡・観光施設」が前年から0.8ポイント減少の24.1%と最も多く、次いで「自然見物・町歩き」が0.6ポイント減少の19.6%、「食べ物」が0.5ポイント増加の17.4%と続いている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「アウトドア」が3.2ポイント増加、「帰省・仕事」が8.5ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「イベント」が2.7ポイント増加、「なんとなく（ドライブを含む）」が3.6ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「イベント」が3.5ポイント増加、「食べ物」が4.8ポイント減少、“団体”では、「帰省・仕事」が27.0ポイント増加、「休養・慰安」が12.7ポイント減少となっている。

平成29年の調査から通して全体割合をみると、「休養・慰安」「イベント」「アウトドア」「買い物」などは過去最大、「自然見物・町歩き」「なんとなく（ドライブを含む）」などは過去最小となっている。

## 7 入込利用交通機関割合

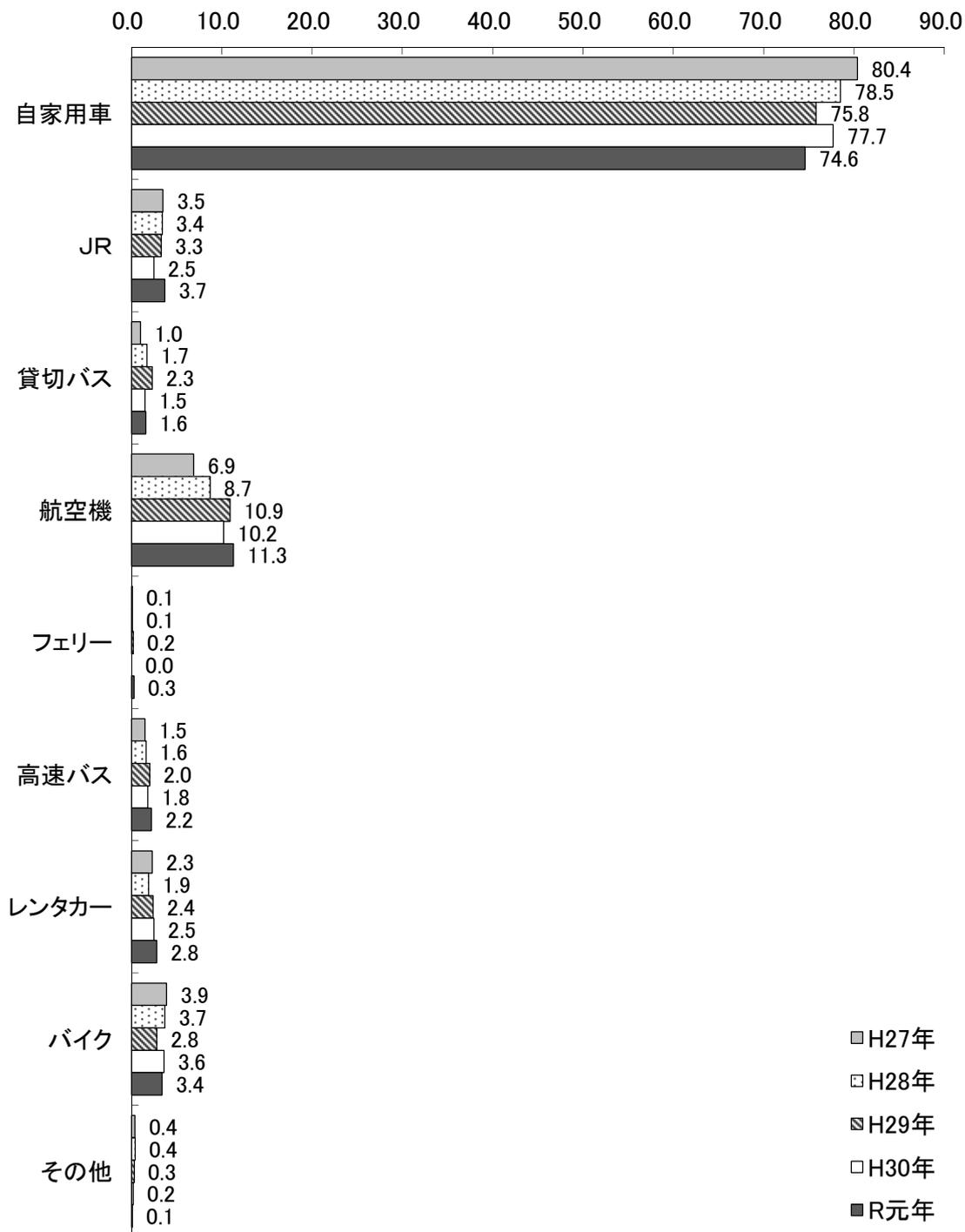
(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [ H27~30、R 元年 ]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
H27年	2,364	104	28	201	3	45	67	115	13
(n=2,940)	80.4	3.5	1.0	6.9	0.1	1.5	2.3	3.9	0.4
H28年	2,337	99	49	260	3	48	57	110	13
(n=2,976)	78.5	3.4	1.7	8.7	0.1	1.6	1.9	3.7	0.4
H29年	2,044	90	61	294	4	54	65	75	9
(n=2,696)	75.8	3.3	2.3	10.9	0.2	2.0	2.4	2.8	0.3
H30年	2,064	65	40	270	0	49	67	97	5
(n=2,657)	77.7	2.5	1.5	10.2	0.0	1.8	2.5	3.6	0.2
R元年	2,173	106	46	330	8	66	82	98	3
(n=2,912)	74.6	3.7	1.6	11.3	0.3	2.2	2.8	3.4	0.1

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から3.1ポイント減少の74.6%で最も多く、次いで「航空機」が1.1ポイント増加の11.3%、「JR」が1.2ポイント増加の3.7%と続いている。

平成27年の調査から通してみると、「JR」「航空機」「レンタカー」などは過去最大、「自家用車」は過去最小となっている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [ H27~30、R元年 ]



## 8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [ H30、R元年 ]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	H30年 (n=24)	0.0	79.1	16.7	0.0	4.2
	R元年 (n=30)	10.0	70.0	20.0	0.0	0.0
20 代	H30年 (n=363)	14.9	35.6	45.7	1.9	1.9
	R元年 (n=325)	15.4	38.1	43.7	2.5	0.3
30 代	H30年 (n=552)	11.1	69.5	17.6	0.5	1.3
	R元年 (n=570)	11.8	71.7	13.9	1.2	1.4
40 代	H30年 (n=629)	14.6	73.0	11.0	0.8	0.6
	R元年 (n=702)	12.3	77.1	9.2	1.0	0.4
50 代	H30年 (n=623)	15.9	73.2	8.3	1.3	1.3
	R元年 (n=658)	15.1	74.5	7.9	1.5	1.0
60代以上	H30年 (n=466)	12.5	74.4	9.4	2.4	1.3
	R元年 (n=627)	15.6	70.3	10.4	2.6	1.1
全 体	H30年 (n=2,657)	13.7	67.5	16.3	1.3	1.2
	R元年 (n=2,912)	13.8	69.6	14.0	1.7	0.9

旅行形態の全体割合をみると、「家族」が 69.6%で最も多く、次いで「友人知人」が 14.0%、「1人」が 13.8%、「団体」が 1.7%、「その他」が 0.9%と続いている。

前年と比べ、「家族」が 2.1 ポイント、「団体」が 0.4 ポイント、「1人」が 0.1 ポイントと、それぞれ増加しており、「友人知人」が 2.3 ポイント、「その他」が 0.3 ポイントと、それぞれ減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20代を除く全ての年代で「家族」が最も多く、20代は「友人知人」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [ H30、R元年 ]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	H30年 (n=24)	0.0	70.8	25.0	4.2	0.0
	R元年 (n=30)	10.0	50.0	23.3	16.7	0.0
20代	H30年 (n=363)	14.9	64.7	15.7	3.0	1.7
	R元年 (n=325)	15.4	66.1	14.5	3.4	0.6
30代	H30年 (n=552)	11.1	63.2	21.9	3.8	0.0
	R元年 (n=570)	11.8	51.2	28.9	6.7	1.4
40代	H30年 (n=629)	14.6	59.1	22.1	3.2	1.0
	R元年 (n=702)	12.3	57.3	26.6	3.1	0.7
50代	H30年 (n=623)	15.9	64.2	14.1	4.8	1.0
	R元年 (n=658)	15.1	68.7	13.0	2.0	1.2
60代以上	H30年 (n=466)	12.5	67.4	12.0	5.1	3.0
	R元年 (n=627)	15.6	60.4	15.0	6.4	2.6
全体	H30年 (n=2,657)	13.7	63.5	17.6	4.0	1.2
	R元年 (n=2,912)	13.8	60.3	20.1	4.4	1.4

同行者数の全体割合をみると、「2~3人」が60.3%で最も多く、次いで「4~5人」が20.1%、「1人」が13.8%、「6~10人」が4.4%、「11人以上」が1.4%と続いている。

前年と比べ、「4~5人」が2.5ポイント、「6~10人」が0.4ポイント、「11人以上」が0.2ポイント、「1人」が0.1ポイント、それぞれ増加しており、「2~3人」が3.2ポイント減少となっている。

年代別にみると、全ての年代で「2~3人」が最も多くなっている。

(表 8-1、8-2 参考①) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [ R 元年 ]

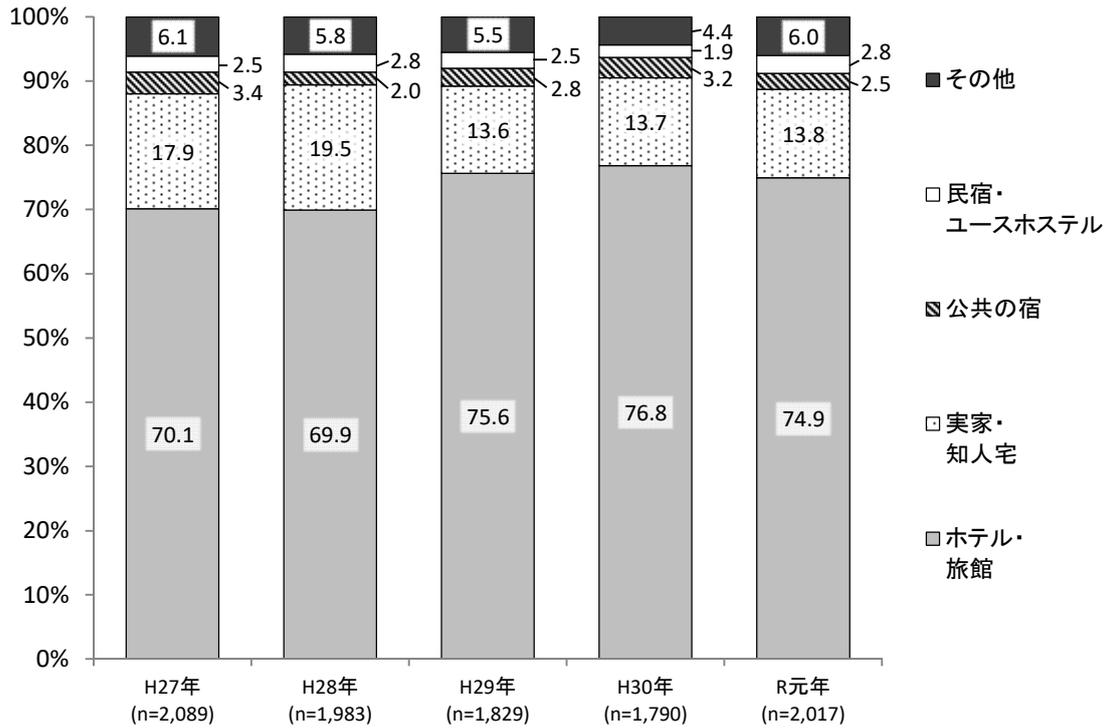
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上												
10代	3	11	5	5		4	2										
20代	50	89	27	6	2	123	16	3		2	4	2		1			
30代	67	219	157	31	2	69	7	3		1	1	2	3	3		2	3
40代	86	350	170	19	2	48	14	3		2	2		3	2	1		
50代	99	406	75	8	1	39	8	4	1	4			6	3	3	1	
60代以上	98	345	69	27		31	22	9	3	3	1	4	8		2		5

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると、20代を除くすべての年代は「2~3人の家族」が最も多く、20代は「2~3人の友人知人」と「2~3人の家族」が多くなっている。

## 9 宿泊施設割合

### 9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [ H27~30、R 元年 ]



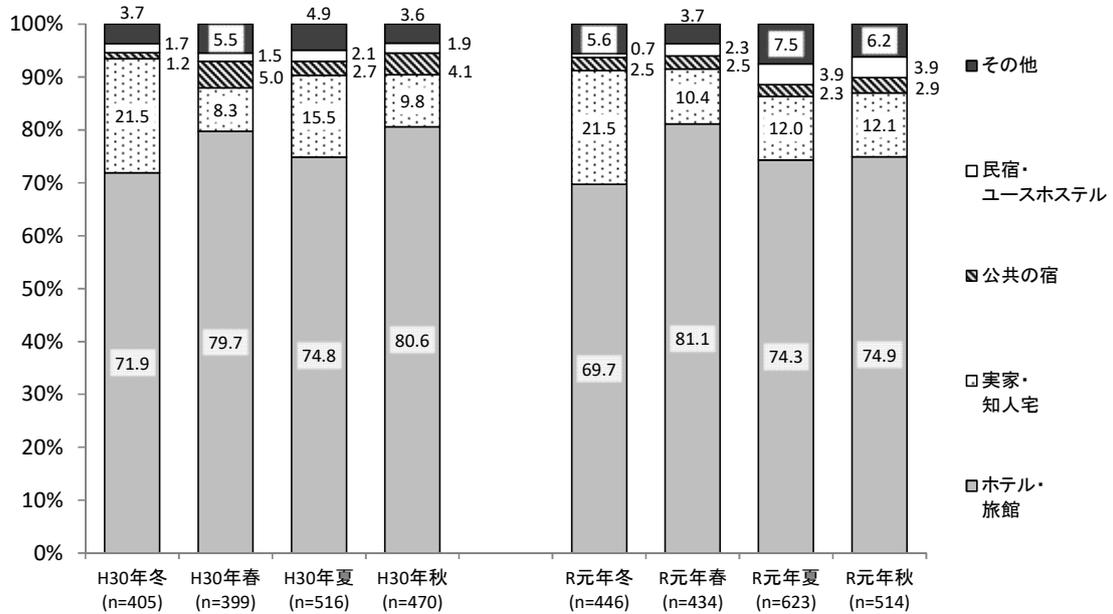
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が74.9%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が13.8%、「その他」が6.0%、「民宿・ユースホステル」が2.8%、「公共の宿」が2.5%と続いている。

前年と比べ、「その他」が1.6ポイント、「民宿・ユースホステル」が0.9ポイント、「実家・知人宅」が0.1ポイント、それぞれ増加し、「ホテル・旅館」が1.9ポイント、「公共の宿」が0.7ポイント、それぞれ減少している。

平成27年の調査から通してみると、「民宿・ユースホステル」は平成28年と並び過去最大となっている。

## 9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [ H30、R 元年 ]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、冬季は「その他」が 1.9 ポイント、「公共の宿」が 1.3 ポイント増加し、「ホテル・旅館」が 2.2 ポイント減少となっている。

春季は「実家・知人宅」が 2.1 ポイント、「ホテル・旅館」が 1.4 ポイント増加し、「公共の宿」が 2.5 ポイント、「その他」が 1.8 ポイント減少となっている。

夏季は「その他」が 2.6 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 1.8 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 3.5 ポイント減少となっている。

秋季は「その他」が 2.6 ポイント、「実家・知人宅」が 2.3 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 2.0 ポイント増加し、「ホテル・旅館」が 5.7 ポイント減少となっている。

### 9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [ H30、R元年 ]

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10 代	H30年 (n=18)	66.7	27.8	0.0	0.0	5.5
	R元年 (n=18)	72.2	22.2	0.0	5.6	0.0
20 代	H30年 (n=251)	74.9	15.1	2.8	1.6	5.6
	R元年 (n=236)	77.1	15.7	0.9	2.1	4.2
30 代	H30年 (n=379)	75.2	15.6	3.4	2.1	3.7
	R元年 (n=410)	71.7	13.4	3.7	4.4	6.8
40 代	H30年 (n=458)	77.5	12.4	3.1	2.0	5.0
	R元年 (n=527)	70.9	17.3	2.5	3.2	6.1
50 代	H30年 (n=402)	79.1	14.9	3.2	0.5	2.3
	R元年 (n=439)	81.1	9.1	2.7	2.3	4.8
60代以上	H30年 (n=282)	76.6	9.6	3.9	3.5	6.4
	R元年 (n=387)	75.4	13.2	2.3	1.6	7.5

年代別利用宿泊施設割合をみると、全ての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

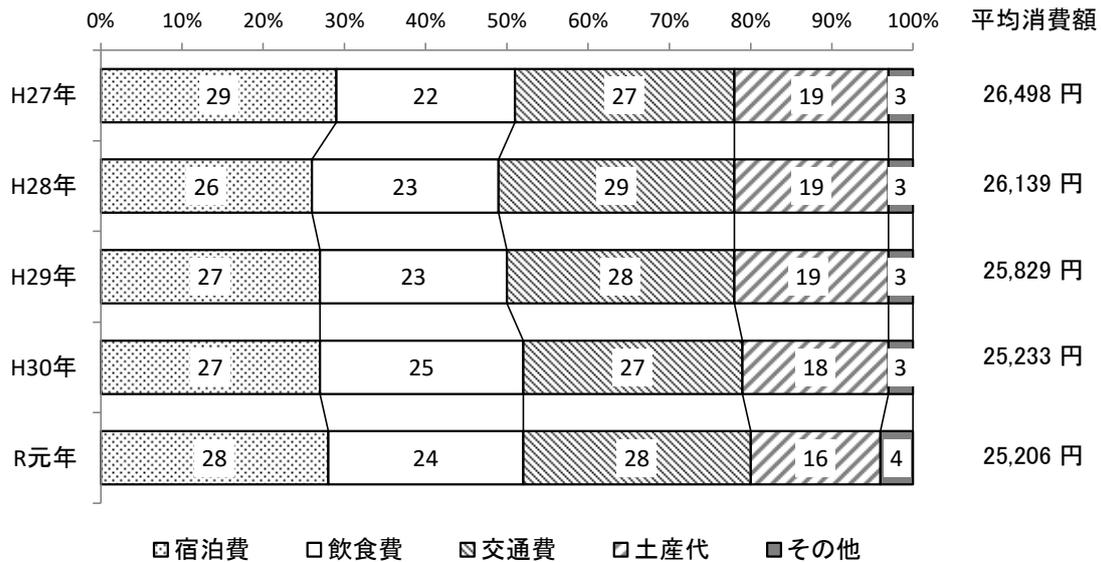
前年と比べ、5.0ポイントを超えて増加している項目は、10代の「ホテル・旅館」と「民宿・ユースホステル」となっている。その一方で減少している項目は、10代の「実家・知人宅」と「その他」、40代の「ホテル・旅館」、50代の「実家・知人宅」となっている。

## 10 県内消費額

### 10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

#### 10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [ H27~30、R 元年 ]



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 27 円の減少の 25,206 円となっている。費目別でみると、「宿泊費」と「交通費」が 28%と最も多く、次いで「飲食費」が 24%と続いている。

(図 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳(円) [ H29、30、R 元年 ]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
H29年	6,922	6,003	7,266	4,815	823	25,829
H30年	6,749	6,202	6,861	4,640	781	25,233
R元年	6,997	6,210	7,047	3,997	955	25,206

費目別の平均消費額を前年と比べると、「宿泊費」が 248 円、「交通費」が 186 円、「その他」が 174 円、「飲食費」が 8 円と、それぞれ増加し、「土産代」が 643 円減少となっている。

平成 29 年の調査から通してみると、「宿泊費」「飲食費」「その他」は過去最大、「土産代」は過去最小となっている。

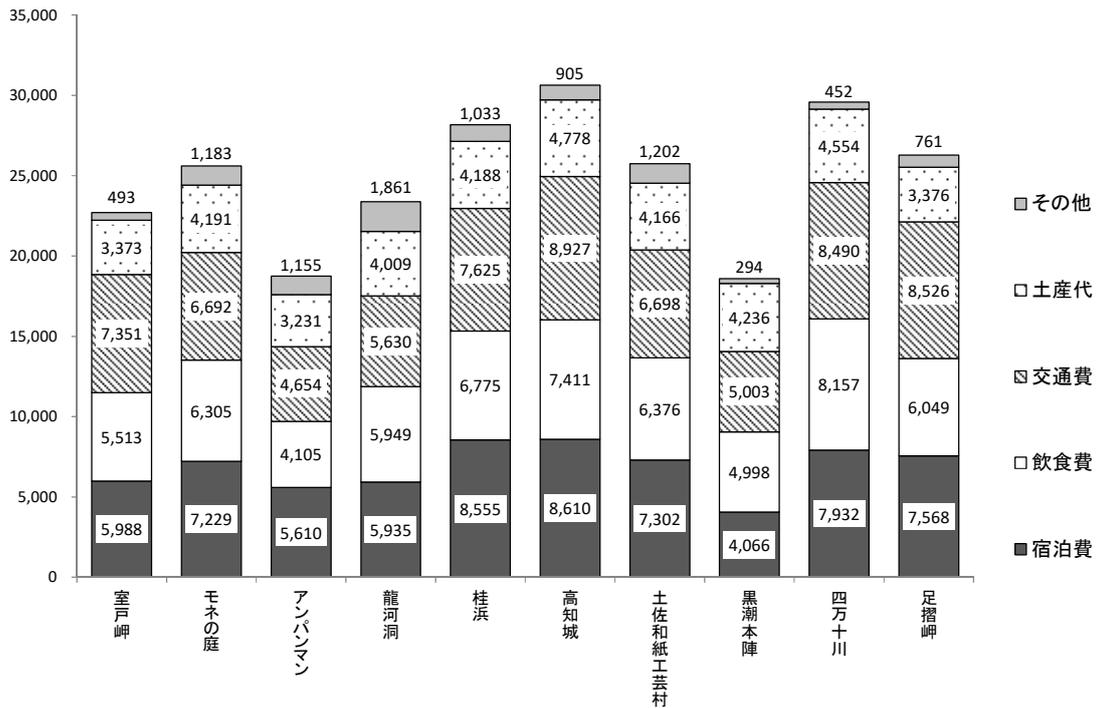
(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額(円) [ H30、R元年 ]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
H30年	21,681	22,103	19,790	26,258	27,317	31,475	21,531	19,082	27,459	28,576
R元年	22,718	25,600	18,755	23,384	28,176	30,631	25,744	18,597	29,585	26,280
前年との差	1,037	3,497	▲ 1,035	▲ 2,874	859	▲ 844	4,213	▲ 485	2,126	▲ 2,296

調査地別の年間平均消費額をみると、「高知城」が30,631円で最も高く、次いで「四万十川」が29,585円、「桂浜」が28,176円と続いており、「黒潮本陣」が18,597円で最も低くなっている。

前年と比べ、「土佐和紙工芸村」が4,213円、「モネの庭」が3,497円の増加となっており、その一方で「龍河洞」が2,874円、「足摺岬」が2,296円の減少となっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [ R元年 ]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、モネの庭、アンパンマンミュージアム、桂浜、土佐和紙工芸村では「宿泊費」が、龍河洞では「飲食費」が、その他の調査地では「交通費」が最も多くなっている。

(参考) 県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R1		H30		H29		H28			
	R1-H30(対H30比)		H30-H29(対H29比)		H29-H28(対H28比)					
県外観光客総数(人)	4,388,348	▲ 24,223	99.5%	4,412,571	6,208	100.1%	4,406,363	162,825	103.8%	4,243,538
	客船以外	客船(乗船客数)	(客船以外)	客船(乗船客数)	客船以外	(客船以外)	客船(乗船客数)	客船以外	(客船以外)	客船(乗船客数)
	▲ 4,331,606	▲ 52	100.0%	▲ 4,331,658	80,913	100.7%	▲ 4,302,503	120,398	102.9%	▲ 4,182,105
	(A)			(A)			(A)			(A)
	客船除く	▲ 27	99.9%	客船除く	▲ 596	97.7%	客船除く	▲ 310	98.8%	▲ 26,139
県外観光客一人当たり消費額(円)	25,206			25,233			25,829			26,139
<内訳> 宿泊費	6,997	248	103.7%	6,749	▲ 173	97.5%	6,922	175	102.6%	6,747
飲食費	6,210	8	100.1%	6,202	199	103.3%	6,003	49	100.8%	5,954
交通費	7,047	186	102.7%	6,861	▲ 405	94.4%	7,266	▲ 493	93.6%	7,759
土産	3,997	▲ 643	86.1%	4,640	▲ 175	96.4%	4,815	▲ 99	98.0%	4,914
その他	955	174	122.3%	781	▲ 42	94.9%	823	58	107.6%	765
県外観光客の総消費額(百万円)	109,182	▲ 118	99.9%	109,301	▲ 1,829	98.4%	111,129	1,813	101.7%	109,316
	客船除く総消費額	(A) × (B)	客船除く総消費額	(A) × (B)	客船除く総消費額	(A) × (B)	客船除く総消費額	(A) × (B)	客船除く総消費額	(A) × (B)
	▲ 489	▲ 646	43.1%	▲ 1,135	▲ 346	76.6%	▲ 1,481	▲ 631	174.2%	▲ 850
	客船乗船客等による消費額			客船乗船客等による消費額			客船乗船客等による消費額			
	109,671	▲ 764	99.3%	110,436	▲ 2,175	98.1%	112,610	2,444	102.2%	110,166
客船除く生産誘発効果(百万円)	167,841			167,419			170,151			169,550
客船の生産誘発効果(百万円)	614	1,309		1,309			1,877			1,211
生産誘発効果(百万円)	168,455	168,728		168,728			172,028			170,761
生産誘発倍率(倍)	1.54	1.53		1.53			1.53			1.55

### 10.1.2 四季別

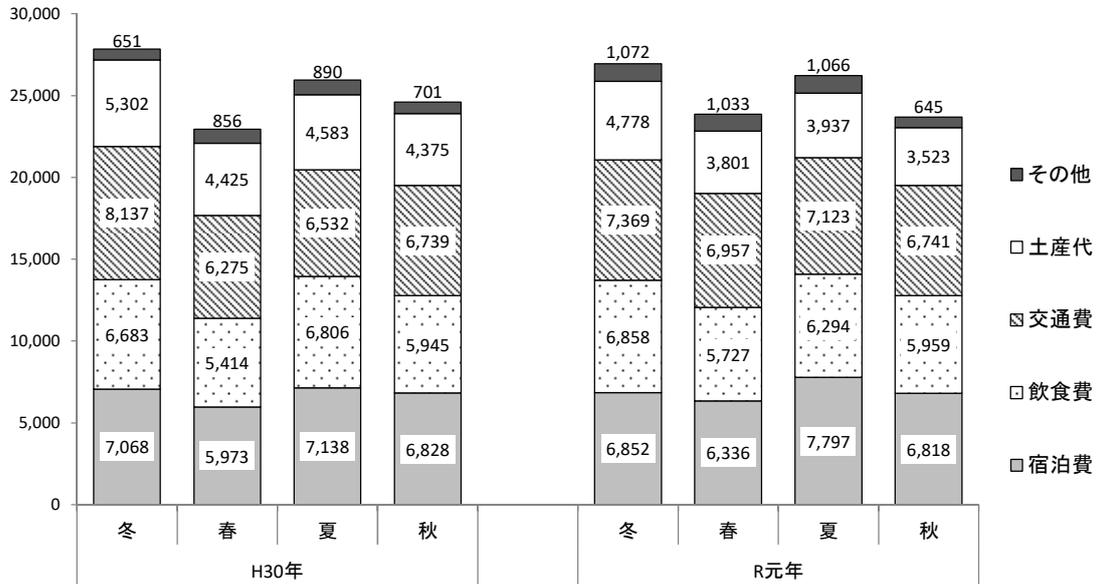
(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [ H30、R元年 ]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	H30年	25	24	29	19	3	27,841円	▲ 912円
	R元年	25	26	27	18	4	26,929円	
春	H30年	26	24	27	19	4	22,943円	911円
	R元年	27	24	29	16	4	23,854円	
夏	H30年	28	26	25	18	3	25,949円	268円
	R元年	30	24	27	15	4	26,217円	
秋	H30年	28	24	27	18	3	24,588円	▲ 902円
	R元年	29	25	28	15	3	23,686円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、春季が 911 円、夏季が 268 円の増加となっており、冬季が 912 円、秋季 902 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は冬季を除く調査時期が増加、冬季が横ばいとなっている。「飲食費」は冬季と秋季が増加、夏季が減少、春季が横ばいとなっている。「交通費」は冬季が減少、その他の調査時期が増加となっている。「土産代」はすべての調査時期が減少となっている。「その他」は冬季と夏季が増加、春季と秋季が横ばいとなっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [ H30、R元年 ]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が夏季の7,797円、「飲食費」が冬季の6,858円、「交通費」が冬季の7,369円、「土産代」が冬季の4,778円、「その他」が冬季の1,072円となっている。

前年と比べ、冬季は「飲食費」「その他」が、春季は「土産代」を除く費目が、夏季は「宿泊費」「交通費」「その他」が、秋季は「飲食費」「交通費」が、それぞれ増加となっている。費目では、「土産代」がすべての調査時期で減少となっている。

## 10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [ H30、R元年 ]

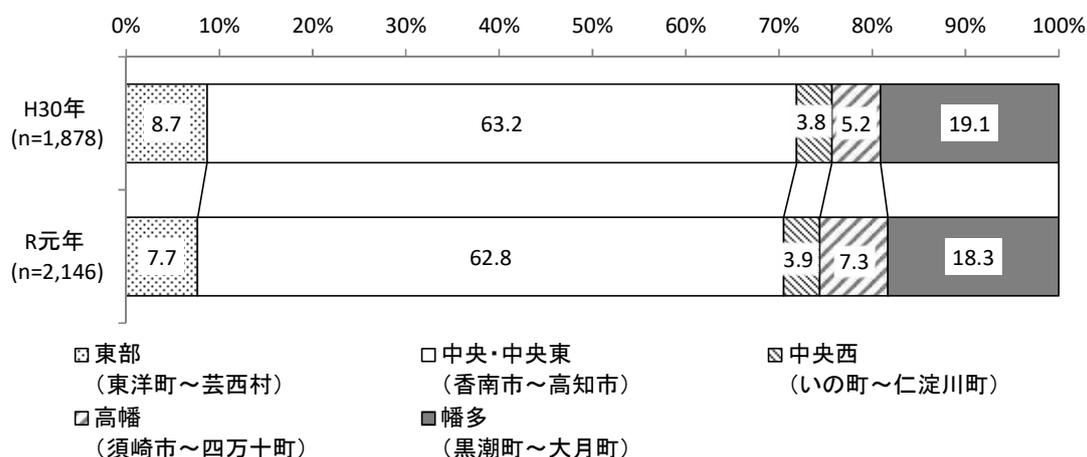
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	H30年	18	28	31	20	3	26,485円	214円
	R元年	35	21	26	16	2	26,699円	
20 代	H30年	23	28	30	16	3	23,631円	1,025円
	R元年	24	25	33	14	4	24,656円	
30 代	H30年	27	25	27	18	3	24,531円	▲ 198円
	R元年	29	24	27	16	4	24,333円	
40 代	H30年	27	25	26	19	3	26,444円	597円
	R元年	27	25	27	16	5	27,041円	
50 代	H30年	27	25	26	19	3	24,533円	499円
	R元年	30	25	27	15	3	25,032円	
60代以上	H30年	29	21	28	19	3	26,582円	▲ 2,294円
	R元年	27	24	28	18	3	24,288円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると20代が1,025円、40代が597円、50代が499円、10代が214円の増加となっており、60代以上が2,294円、30代が198円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は60代以上が減少、40代が横ばい、その他の年代が増加となっている。「飲食費」は60代以上が増加、40代と50代が横ばい、10代から30代が減少となっている。「交通費」は10代が減少、30代と60代以上が横ばい、その他の年代が増加となっている。「土産代」はすべての年代が減少となっている。「その他」は10代が減少、50代と60代以上が横ばい、その他の年代が増加となっている。

## 11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [ H30、R 元年 ]



県内での宿泊地域をみると、「中央・中央東」が62.8%で最も高く、次いで「幡多」が18.3%、「東部」が7.7%、「高幡」が7.3%、「中央西」が3.9%と続いている。

前年と比べ、「高幡」が2.1ポイント、「中央西」が0.1ポイントの増加、「東部」が1.0ポイント、「幡多」が0.8ポイント、「中央・中央東」が0.4ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [ R 元年 ]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	25.7	7.8	55.1	1.8	1.2	8.4
モネの庭	28.9	8.6	55.1	1.6	2.1	3.7
アンパンマン	4.7	18.7	67.9	2.9	2.9	2.9
龍河洞	7.0	17.8	60.3	4.7	5.1	5.1
桂浜	2.2	3.0	75.5	5.6	7.4	6.3
高知城	3.3	5.1	81.0	4.4	2.2	4.0
土佐和紙工芸村	3.8	2.5	58.2	16.5	10.8	8.2
黒潮本陣	6.5	3.7	44.9	3.7	31.8	9.4
四万十川	1.6	1.0	33.1	0.7	10.2	53.4
足摺岬	4.1	1.4	36.1	1.0	8.8	48.6
全体	7.7	6.3	56.5	3.9	7.3	18.3

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると（P41：表 11-2）、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」、桂浜は「中央」「高幡」、高知城は「中央」「中央東」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

（表 11-3）調査地別県内利用宿泊施設割合（%）〔R 元年〕

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	67.1	21.1	0.0	3.7	8.1
モネの庭	71.7	22.0	1.7	1.1	3.5
アンパンマン	82.4	14.0	1.8	0.0	1.8
龍河洞	64.1	26.3	3.0	0.5	6.1
桂浜	85.3	4.3	4.0	2.4	4.0
高知城	91.3	4.5	1.5	0.4	2.3
土佐和紙工芸村	64.6	15.3	4.7	4.7	10.7
黒潮本陣	59.0	19.1	11.4	2.9	7.6
四万十川	63.3	18.0	1.4	6.6	10.7
足摺岬	83.8	4.7	0.8	4.7	6.0
全体	74.9	13.8	2.5	2.8	6.0

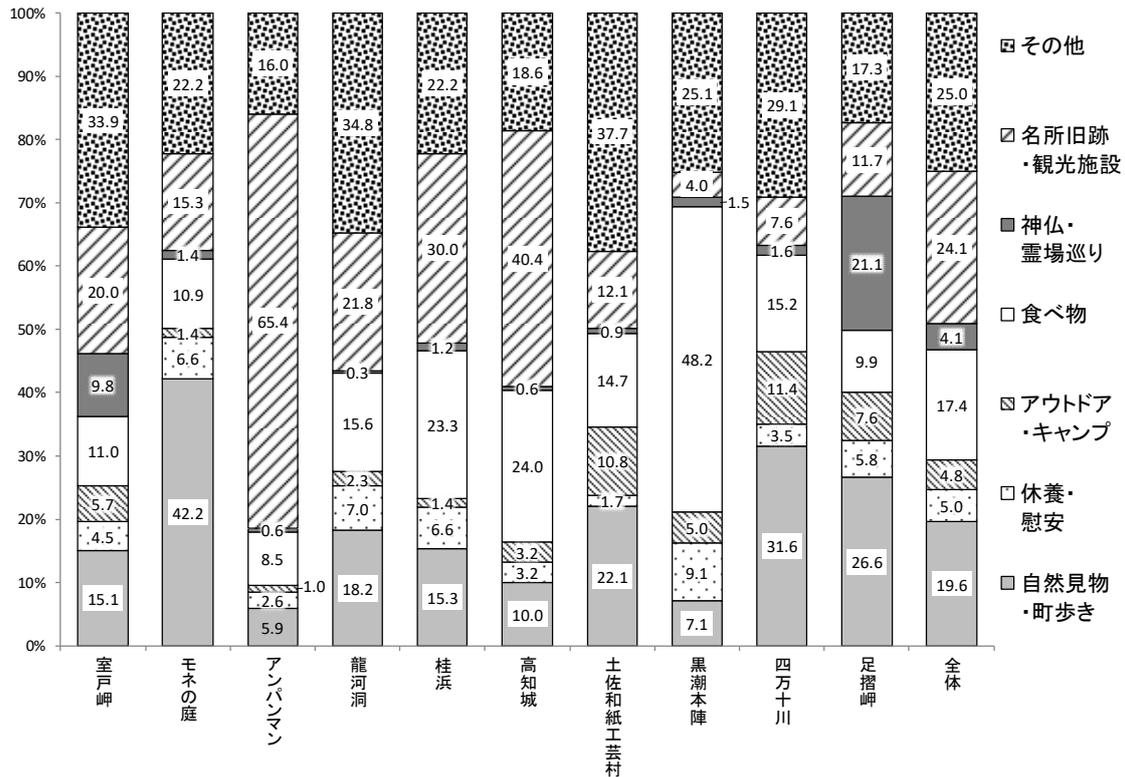
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

## 12 調査地別割合

### 12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [ R 元年 ]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [ R 元年 ]

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	15.1	4.5	5.7	11.0	9.8	<b>20.0</b>	<b>33.9</b>
モネの庭	<b>42.2</b>	6.6	1.4	10.9	1.4	15.3	<b>22.2</b>
アンパンマン	5.9	2.6	1.0	8.5	0.6	<b>65.4</b>	<b>16.0</b>
龍河洞	18.2	7.0	2.3	15.6	0.3	<b>21.8</b>	<b>34.8</b>
桂浜	15.3	6.6	1.4	<b>23.3</b>	1.2	<b>30.0</b>	22.2
高知城	10.0	3.2	3.2	<b>24.0</b>	0.6	<b>40.4</b>	18.6
土佐和紙工芸村	<b>22.1</b>	1.7	10.8	14.7	0.9	12.1	<b>37.7</b>
黒潮本陣	7.1	9.1	5.0	<b>48.2</b>	1.5	4.0	<b>25.1</b>
四万十川	<b>31.6</b>	3.5	11.4	15.2	1.6	7.6	<b>29.1</b>
足摺岬	<b>26.6</b>	5.8	7.6	9.9	<b>21.1</b>	11.7	17.3
全体	19.6	5.0	4.8	17.4	4.1	24.1	25.0

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると（P43：図 12-1、表 12-2）、「室戸岬」と「龍河洞」は“その他”が最も多く、次いで“名所旧跡・観光施設”が続いている。その他の内訳では、「室戸岬」は“なんとなく（ドライブを含む）”が、「龍河洞」は“帰省・知人訪問”と“祭り・イベント”が多くなっている。

「モネの庭」は“自然見物・町歩き”が 42.2%と調査地別で最も多く、次いで“その他”が続いている。その他の内訳では“帰省・知人訪問”が多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」は“名所旧跡・観光施設”が 65.4%と調査地別で最も多く、次いで“その他”が続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が多くなっている。

「桂浜」と「高知城」は“名所旧跡・観光施設”が最も多く、次いで“食べ物”が続いている。

「土佐和紙工芸村」は“その他”が 37.7%と調査地別で最も多く、次いで“自然見物・町歩き”が続いている。その他の内訳では“なんとなく（ドライブを含む）”、“祭り・イベント”などが多くなっている。

「黒潮本陣」は“食べ物”が 48.2%と調査地別で最も多く、次いで“その他”が続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”、“買い物”が多くなっている。

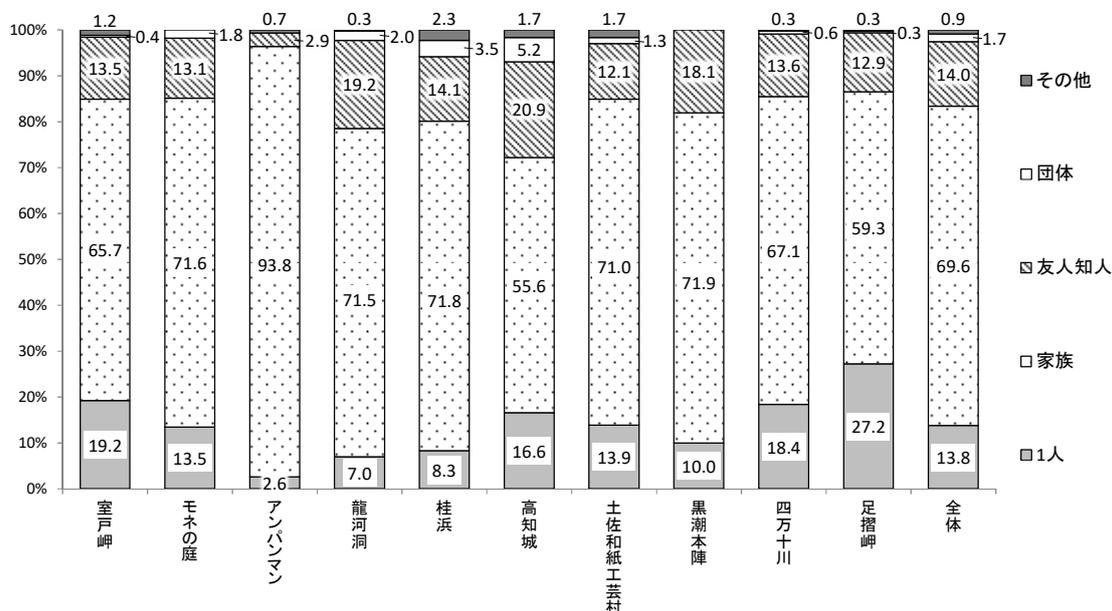
「四万十川」は“自然見物・町歩き”が最も多く、次いで“その他”が続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”、“何となく（ドライブを含む）”が多くなっている。

「足摺岬」は“自然見物・町歩き”が最も多く、次いで“神仏・霊場巡り”が続いている。

旅行目的別にみると、“自然見物・町歩き”は「モネの庭」「四万十川」「足摺岬」、「休養・慰安」は「黒潮本陣」「龍河洞」「モネの庭」と「桂浜」、「アウトドア・キャンプ」は「四万十川」「土佐和紙工芸村」「足摺岬」、「食べ物」は「黒潮本陣」「高知城」「桂浜」、「神仏・霊場巡り」は「足摺岬」「室戸岬」「四万十川」、「名所旧跡・観光施設」は「アンパンマンミュージアム」「高知城」「桂浜」の順で、それぞれ多くなっている。

## 12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [ R 元年 ]

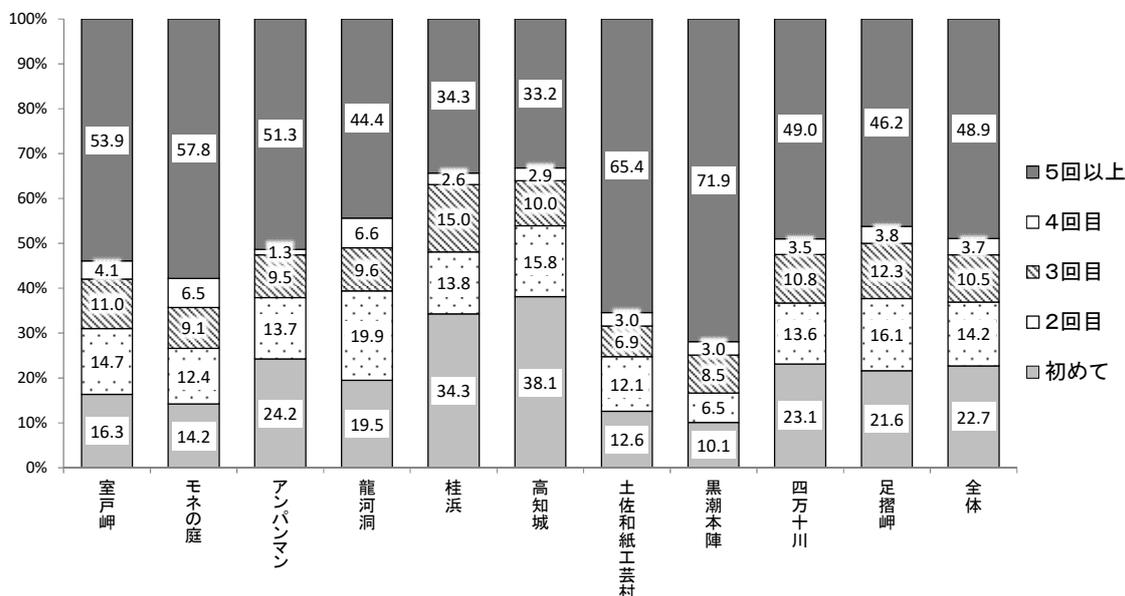


調査地別の旅行形態割合をみると、全ての調査地で「家族」が最も多く、次いで、室戸岬、モネの庭、土佐和紙工芸村、四万十川、足摺岬は「1人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別にみると、「1人」は足摺岬、室戸岬、四万十川、「家族」はアンパンマンミュージアム、黒潮本陣、桂浜、「友人知人」は高知城、龍河洞、黒潮本陣、「団体」は高知城、桂浜、龍河洞の順で、それぞれ多くなっている。

## 12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [ R 元年 ]



(表 12-5) 過去来県回数割合(%) [ H28~30、R 元年 ]

	初めて	2回目	3回以上		
			3回	4回	5回以上
H28年	22.1	14.2	63.7	-	-
H29年	24.8	14.5	60.7	-	-
H30年	25.1	14.0	60.9	9.4	3.9
R元年	22.7	14.2	63.1	10.5	3.7

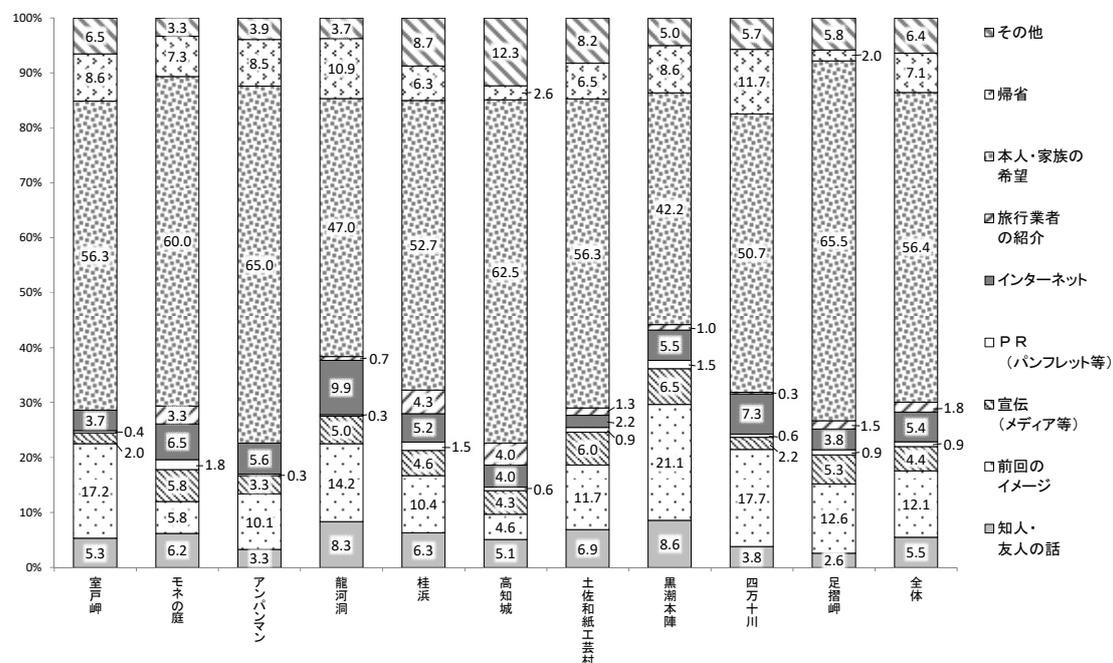
※ 3回以上の具体的な回数の聞き取りは、平成30年度調査より実施。

全体の過去来県回数は、「5回以上」が48.9%と最も多く、次いで「初めて」が22.7%、「2回目」が14.2%、「3回目」が10.5%、「4回目」が3.7%と続いている。

来県回数別にみると、「初めて」は高知城、桂浜、アンパンマンミュージアム、「2回目」は龍河洞、足摺岬、高知城、「3回目」は桂浜、足摺岬、室戸岬の順で、「4回目」は龍河洞、モネの庭、室戸岬、「5回以上」は黒潮本陣、土佐和紙工芸村、モネの庭の順で、それぞれ多くなっている。

## 12.4 動機割合

(図 12-6) 調査地別動機割合(%) [ R 元年 ]



(表 12-7) 調査地別動機割合(%) [ R 元年 ]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	5.3	17.2	2.0	0.4	3.7	0.0	56.3	8.6	6.5
モネの庭	6.2	5.8	5.8	<b>1.8</b>	6.5	3.3	60.0	7.3	3.3
アンパンマン	3.3	10.1	3.3	0.3	5.6	0.0	<b>65.0</b>	8.5	3.9
龍河洞	<b>8.3</b>	14.2	5.0	0.3	<b>9.9</b>	0.7	47.0	<b>10.9</b>	3.7
桂浜	6.3	10.4	4.6	<b>1.5</b>	5.2	<b>4.3</b>	52.7	6.3	<b>8.7</b>
高知城	5.1	4.6	4.3	0.6	4.0	<b>4.0</b>	62.5	2.6	<b>12.3</b>
土佐和紙工芸村	6.9	11.7	<b>6.0</b>	0.9	2.2	1.3	56.3	6.5	8.2
黒潮本陣	<b>8.6</b>	<b>21.1</b>	<b>6.5</b>	<b>1.5</b>	5.5	1.0	42.2	8.6	5.0
四万十川	3.8	<b>17.7</b>	2.2	0.6	<b>7.3</b>	0.3	50.7	<b>11.7</b>	5.7
足摺岬	2.6	12.6	5.3	0.9	3.8	1.5	<b>65.5</b>	2.0	5.8
全体	5.5	12.1	4.4	0.9	5.4	1.8	56.4	7.1	6.4

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が56.4%と最も多く、次いで「前回のイメージ」が12.1%、「帰省」が7.1%、「その他」が6.4%と続いている。

動機別にみると、「知人・友人の話」は黒潮本陣と龍河洞が、「前回のイメージ」は黒潮本陣と四万十川が、「宣伝（メディア等）」は黒潮本陣と土佐和紙工芸村が、「PR（パンフレット等）」はモネの庭、桂浜と黒潮本陣が、「インターネット」は龍河洞と四万十川が、「旅行業者の紹介」は桂浜と高知城が、「本人・家族の希望」は足摺岬とアンパンマンミュージアムが、「帰省」は四万十川と龍河洞が、それぞれ多くなっている。

## 13 <参考>委託事業者の所見

平成 26 年から「高知家の食卓」県民総選挙で、県外から訪れる旅行者らにオススメしたい飲食店を県民投票で選出し、それと連動する形で宿泊施設・選ばれた飲食店から利用者が特典を受けるという「食」「宿泊」のキャンペーンを実施。平成 29 年からは大政奉還 150 年、明治維新 150 年という歴史のターニングポイントに合わせた「志国高知 幕末維新博」を開催。高知の強みのひとつとなる「歴史・文化」を県内全域で、それぞれ磨きをかけて開催した。そして、平成 31 年 2 月から高知の「自然・体験」にスポットを当てた「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」がスタートした。

食・歴史文化・遊んで学んで土佐の人にふれる体験メニューへと、地域の強みを活かした観光キャンペーンは、地域の観光素材を育み、観光のソコジカラをつけてきた。この期間に並行して取り組まれてきた、県内の観光施設・道の駅・宿泊施設などで提示するだけで特典が受けられる「龍馬パスポート」では、周遊する楽しさを実感するシステムをつくりあげた。

こうした戦略的な観光施策により、平成 25 年以降、7 年連続で高知県を訪問した県外観光客入込数が 400 万人を超え、平成 30 年には過去最高となる 441 万 2 千人となった。このような現状のなかで、観光客動向調査（以下、調査という）で得られた分析結果と旅行者の声などを参考に、県外旅行者の傾向や課題を考察する。

### 1. 県内消費額を増やすために、旅行日数（2.1 日）を延ばす可能性を探る

R 元年調査で得られた結果の特徴の一つに、「2泊3日」の割合が平成 27 年以降の調査で最大の 16%になったことが挙げられる（P17：表 3-1）。その影響もあり、県内旅行の平均日数は 2.0 日から 2.1 日へ微増した（P24：図 5-1）。県内平均消費額は前年比 27 円減の 25,206 円だった（P35：図 10-1）。

インバウンド効果も見込み（但し、令和 2 年は新型コロナウイルスの影響が想定される）、県外観光客入込数を令和 5 年に 460 万人以上へと飛躍する目標を掲げながら、1 人当たりの県内平均消費額を 25,206 円から伸ばしていくために旅行日数を延ばす方法を模索する。

(表 13-1) 旅行日程別県内平均消費額(円) [ H30、R 元年 ]

R 元年	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	総額	差額
日帰り	0	2,347	3,653	2,196	618	8,814	—
1泊2日	9,550	6,191	7,112	4,171	1,013	28,037	19,223
2泊3日	14,645	9,754	11,157	5,813	1,437	42,806	14,769
3泊4日	14,181	12,426	12,812	6,095	1,357	46,871	4,065
4泊5日	8,578	12,894	10,991	7,765	1,437	41,665	△ 5,206
5泊6日以上	8,256	20,736	14,741	8,564	950	53,247	11,582

H30年	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	総額	差額
日帰り	0	2,641	3,683	2,329	549	9,202	—
1泊2日	9,816	6,553	7,106	5,377	880	29,732	20,530
2泊3日	14,276	9,818	12,295	6,690	1,063	44,142	14,410
3泊4日	11,473	14,011	12,436	8,152	872	46,944	2,802
4泊5日	9,971	16,176	11,600	9,971	536	48,254	1,310
5泊6日以上	9,280	21,100	12,194	9,240	1,193	53,007	4,753

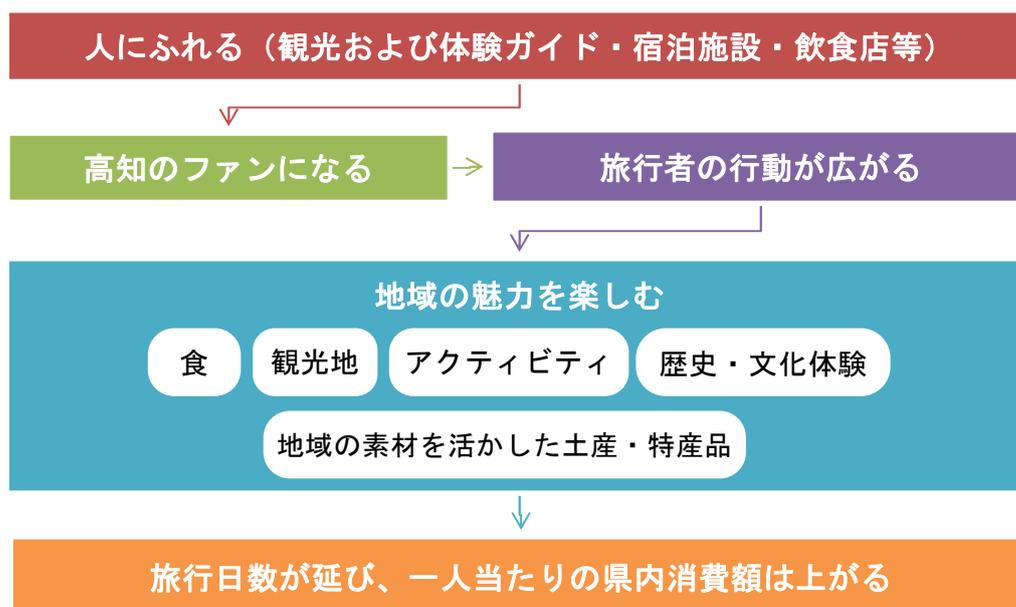
旅行日数による県内平均消費額の差は一目瞭然で、R 元年調査の場合、日帰りと1泊2日では19,223円、1泊2日と2泊3日でも14,769円の差がある。宿泊費が発生しないケースが多い帰省客なども集計対象に加わる3泊以上になると金額の上昇度は若干鈍るものの、いかに宿泊することで1人当たりの金額が高くなるかが表れている。

では、どのような戦略で2泊3日旅行へつなげていくかが課題となる。アンケート調査の際に旅行者から多くの感想を聞いているが、それがヒントになると感じている。

例を挙げると、「ラフティングガイドさんがとても親切にしてくれて、子どもがファンになった。」「ホテルの方に聞いた居酒屋が安価で美味しく、とても嬉しかったし、その大将にもじっくり話が聞けて旅の思い出になった。」「ひろめ市場で隣になった方に、明日行く観光地の相談や、どこで土産を買ったらいいか相談したら、快く即答してくれた。」など、高知の人(生活者)に接して、その親切心や優しさに触れたという声を多く聞く。その「高知の人にふれる、おもてなしの心を感じる」ことが、本県のファンづくりになり、旅行者の行動拡大(あるいはリピーターとなり、次回の高知旅行の日数増や消費額増加)につながる。

そのために、県中央部、西部、東部のそれぞれに魅力が揃っているなか、2泊3日以上  
の旅行こそが「高知の魅力を体感できる」というメッセージを全国に発信してはどうか。  
そして、広域の観光クラスターの磨き上げ強化を行政（県や市町村）、旅行関連施設・関係  
者を挙げて取り組んでいかなければならない。

株式会社リクルートスタイルが発表した「じゃらん宿泊旅行調査 2019」では、来県する  
前からの期待値となる「そこならではの食・特産品に興味があったから」で1位、実際に  
訪れた評価となる「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」で2位と、高知は食や特  
産品の評価が全国でもトップクラス。その「食」を核として、観光施設、アクティビティ  
や歴史・文化体験、温泉などの癒し施設、ナイトタイムエコノミーなどを組み合わせて、  
地域ごとの強みを生かしながら、具体的なモデルコースを、1人旅、友人同士、小学生が  
いるファミリー層、3世代旅、50代からの夫婦旅、団体などといった旅行形態ごとに設定  
して、広報していく。



県内の各エリアで「旅行者が県民に出会う場所づくり、機会づくり」を観光クラスター  
のなかに組み込んでいくことが、2泊3日以上旅行に必要だと思われる。そのためには、  
得意とするジャンルを組み合わせる旅行商品化、あるいはPRするコーディネート力と、  
それを魅力的に伝えるデザイン力になるのではないだろうか。

## 2. 旅行目的についてアウトドアが4.8%と増加した。

ここでは「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」について考察する。調査では、キャンペーンの認知度は以下のとおりとなっている。

(表 13-2) 「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」の認知度(%) [ R 元年 ]

		出発前から 知っていた	旅行中に 知った	知らなかった
全体	(n=4,000)	37.6	6.3	56.1
県内	(n=1,058)	71.1	0.6	28.4
県外	(n=2,942)	25.6	8.3	66.1
四国	(n=1,012)	34.9	3.7	61.5
中国	(n=405)	23.0	8.1	68.9
甲信・東海	(n=125)	22.4	12.0	65.6
関東	(n=406)	21.9	18.5	59.6
近畿	(n=778)	20.4	6.9	72.6
北海道・東北	(n=47)	17.0	17.0	66.0
北陸・新潟	(n=31)	16.1	6.5	77.4
九州・沖縄	(n=129)	13.2	14.7	72.1
海外	(n=9)	0.0	22.2	77.8

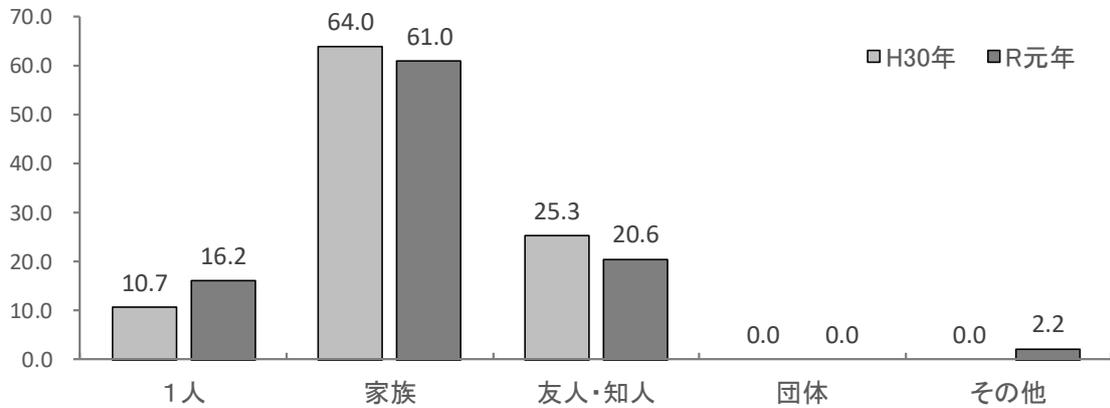
県外 25.6%、県内 71.1%の旅行者が出発前からキャンペーンのことを知っていた。さらに、県外旅行者の内訳を発地別で見ると、四国は 34.9%と高いが、入込数の多い中国・近畿・関東は、22%程度となっている。この認知度をさらに高めることで、サーファー、キャンパー、カヌーイストらアウトドア愛好家から、ライトに楽しみたいファミリー層や初心者などへのアプローチになる。

また、高知県への旅行目的において「アウトドア」の割合は、平成 29 年の 3.4%、平成 30 年の 3.0%から、キャンペーンが始まった令和元年は 4.8%と増加し、成果を感じさせた (P26: 表 6-1)。

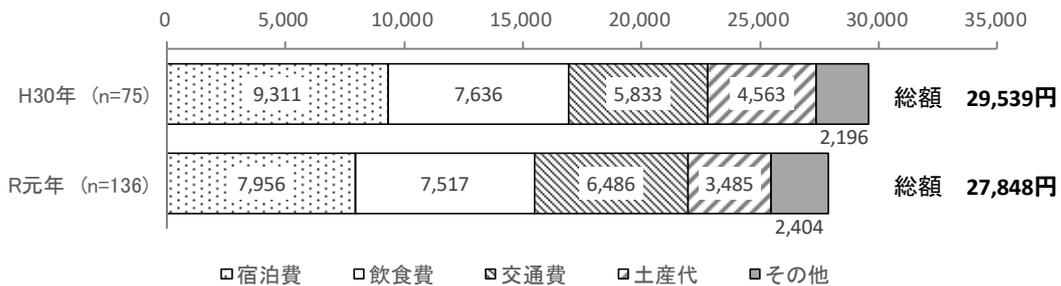
これは「スノーピーク」(越知町、土佐清水市) や「モンベル」(本山町) といった大手アウトドアブランドが直営するキャンプフィールドやアクティビティが整備されたことも、その要因として挙げられる。両社は全国への情報発信力が強く、アウトドアにチカラを入れているという本県のイメージがつくられた面があると想像する。

また、海・川・山の豊かな自然を活用したアクティビティや食体験、歴史・文化体験など、県内の各地域で体験プログラムが充実。室戸市でも新しいグランピング施設ができ、令和 2 年に新足摺海洋館 SATOUMI がオープンするなど、県内のアウトドア・宿泊施設の整備が進められている。

(図 13-3) 旅行目的「アウトドア」の旅行形態(%) [ H30、R 元年 ]



(図 13-4) 旅行目的「アウトドア」の県内平均消費額(円) [ H30、R 元年 ]

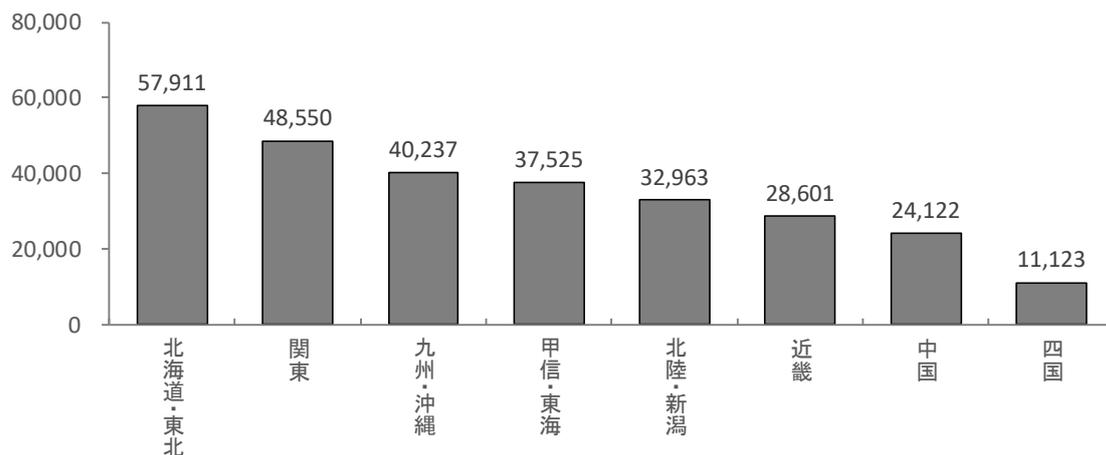


平成 30 年が 3.0%、令和元年は 4.8%と増加した旅行目的の「アウトドア」について、さらに分析を進めた。前年との比較で見ると、1人旅の割合(10.7%→16.2%)が多くなり、家族(64.0%→61.0%)や友人・知人(25.3%→20.6%)の割合が少なくなった。消費額も約 1,700 円減少した。まだサンプル数が少ないという点があるが、逆に見れば、伸びしろが期待できるカテゴリーということでもある。アウトドアはリピーターが期待できるだけに、令和 2 年も注視していく。

### 3. キーワードは首都圏、1人旅、バリアフリー観光。

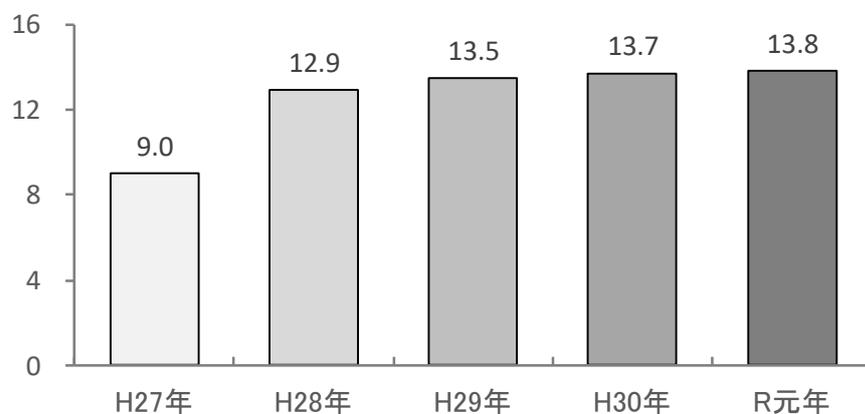
令和元年の調査結果から、関東ブロックからの入込割合が四国・近畿に次いで多く、距離的に近い中国を3年連続で上回っている（P20：表4-1）。

（図13-5）発地ブロック別県内平均消費額（円）〔R元年〕



先述した入込割合に加えて、発地ブロック別の県内平均消費額を考慮すると、関東からの旅行者は経済波及効果が大きいことは一目瞭然である。これが増えていることは本県にとって良い傾向であり、今後も特に重要視していくべき発地ブロックである。旅行者のなかには「LCCを利用して交通費を抑えられた分、現地の観光地でお金を使う」といった感想もあり、周遊しているパターンを見かけることが多くなった。そのあたりは、全国から成田・関空経由で本県へという、新たな需要の掘り起こしになりはしないだろうか。積極的なPRは欠かせないところだ。

(図 13-6) 旅行形態「1人旅」割合(%) [ H27~30、R元年 ]



そして、全国的な旅行トレンドである1人旅が、高知県の観光にも当てはまっている。しかし、そこでの課題は二次交通であり、ごめん・なはり線「奈半利駅」から室戸岬をはじめとする東部エリアでの観光、中村・宿毛線「中村駅」から足摺岬をはじめとする幡多エリアでの観光などにおける「アクセスできる便数の少なさ」をアンケート調査の際に指摘されることが多かった。



Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒にの旅行ですか。 ※子供や乳幼児も含む

( ) 人

2人以上の場合  
 → 1. 家族      2. 友人      3. 職場・学校等の団体旅行      4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない    2. 知っている → 1回目の人数 ( ) 人、2回目の人数 ( ) 人  
 3回目の人数 ( ) 人、4回目以上の人数 ( ) 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて      2. 2回目      3. 3回目以上 ( ) 回目

Q10. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない    2. 知っている → 1回目の人数 ( ) 人、2回目の人数 ( ) 人  
 3回目の人数 ( ) 人、4回目以上の人数 ( ) 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。 ※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

また、この県に訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

高知県までの主な交通機関 [ ]      高知県内での主な交通機関 [ ]

ここに来る前にいた場所

居住地 → [ ] → [ ] → [ ] → [ ] → [ ] → [ ] → 調査地点

交通機関 [ ]    交通機関 [ ]

現在地

これから行く予定の場所

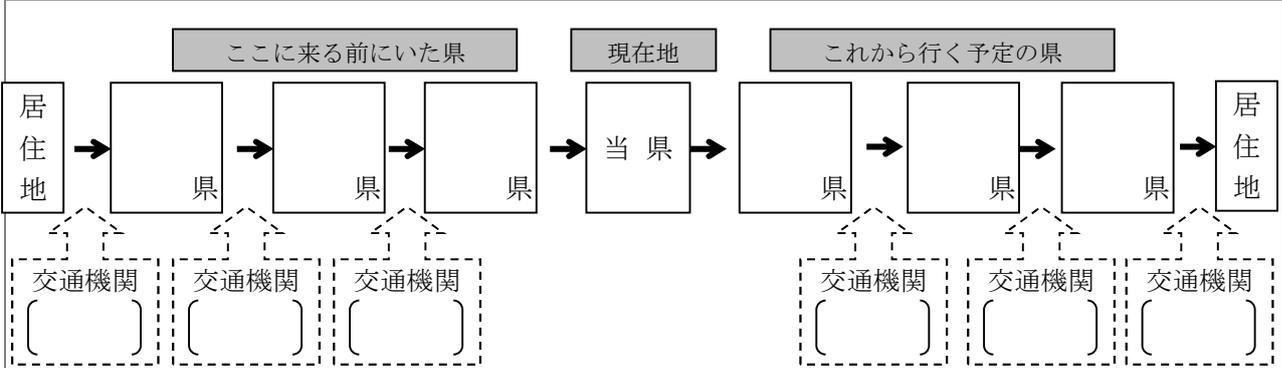
調査地点 → [ ] → [ ] → [ ] → [ ] → [ ] → [ ] → 居住地

交通機関 [ ]    交通機関 [ ]

【表】交通機関

- |                       |             |             |               |            |
|-----------------------|-------------|-------------|---------------|------------|
| ① J R 新幹線             | ② J R 在来線   | ③ 私鉄・地下鉄    | ④ モノレール       | ⑤ - 1 貸切バス |
| ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) | ⑥ 高速バス      | ⑦ 市内バス・路線バス |               |            |
| ⑧ 路面電車                | ⑨ タクシー・ハイヤー | ⑩ レンタカー     | ⑪ 自家用車、社用・公用車 |            |
| ⑫ 飛行機                 | ⑬ フェリー      | ⑭ バイク       | ⑮ その他         |            |

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線    ② J R 在来線    ③ 私鉄・地下鉄    ④ モノレール    ⑤ - 1 貸切バス
- ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む)    ⑥ 高速バス    ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車    ⑨ タクシー・ハイヤー    ⑩ レンタカー    ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機    ⑬ フェリー    ⑭ バイク    ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※  ←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用
①交通費	(県内分) 円		(県外分) 円
②宿泊費	(県内分) 円		
③土産代	(県内分) 円		
④飲食費	(県内分) 円		
⑤入場料	(県内分) 円		
⑥その他	(県内分) 円		
⑦パック料金			円
		<input type="checkbox"/>	↑ 県内分のみ    もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード	都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
1. 観_共通_日				:	

・高知県では、「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」に取り組んでいます。  
・また、約700施設で特典が受けられる「龍馬パスポート」を発行しています。

Q1 「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q2 「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」の公式ウェブサイトをご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった →Q5へ

↓1, 2の場合

Q3 公式サイトを知ったきっかけ

1. SNS 2. その他インターネット 3. 知人・友人 4. 宣伝 (TV・ラジオ・新聞・雑誌等)  
5. PR (パンフレット・キャンペーン等) 6. その他 ( )

Q4 公式サイトのご活用方法

1. 体験プログラムの予約 2. 情報収集 3. その他 ( )

Q5 「龍馬パスポート」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった。

Q6 「龍馬パスポート」をお持ちですか。(Q2で1または2と答えた方のみ。)

- 1 持っている。(パスポート種別: 1 青 2 赤 3 ブロンズ 4 シルバー 5 ゴールド)  
2 現在申請書にスタンプを集めている。  
3 持っていない。

Q7 約2,000件の観光情報をスマホアプリに集約した「公式!こうち旅アプリ」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q8 「おもてなしトイレ」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q9 「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしトイレ」の快適性について

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

Q10 「おもてなしタクシー」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q11 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆